T-ブロック

取付説明書

●このたびは、東洋エクステリア製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
●正しく施工、組付けをしていただくために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。

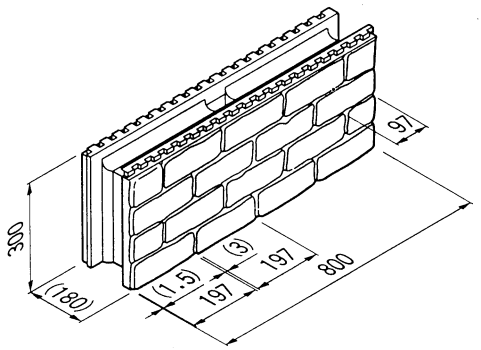
<注意事項>

■モルタル施工は5℃以下では行なわないでください。
■特に凍結が予想される場合は注意してください。

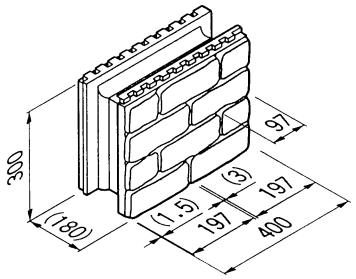
1.ブロックの種類および寸法

（※ブリックはコンクリート製品ですので、ブロックの仕上がり寸法には「バラツキ」があります。）

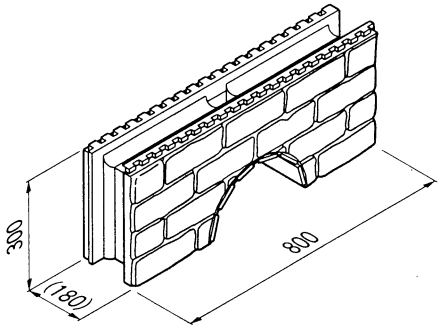
1-1 基本ブロック（W:800×H:300）



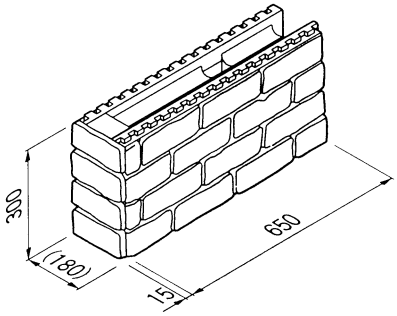
1-2 半切ブロック（W:400×H:300）



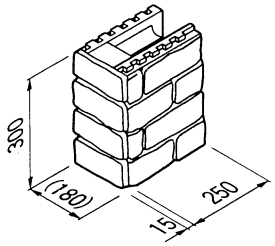
1-3 窓枠ブロック上用（W:800×H:300）



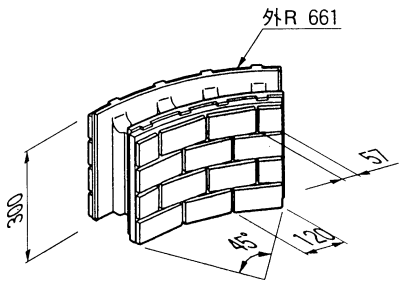
1-4 窓枠ブロック下用（大）（W:650×H:300）



1-5 窓枠ブロック下用（小）（W:250×H:300）

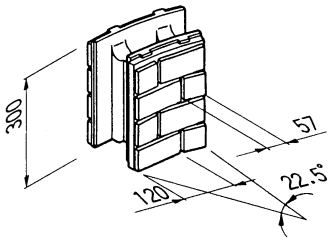


1-6 Rブロック

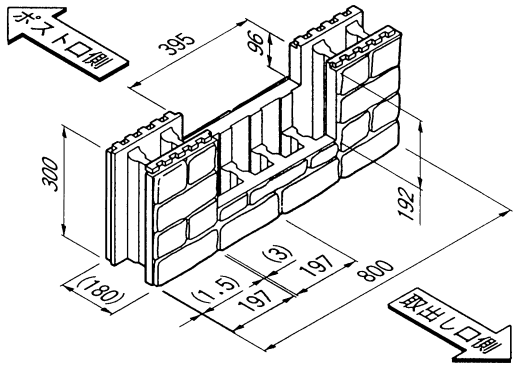


1.ブロックの種類および寸法(つづき)

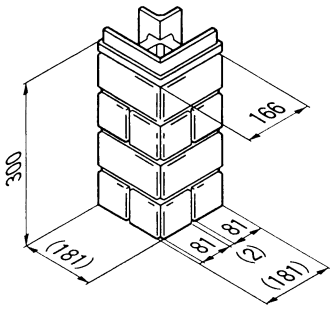
1-7 R半切ブロック



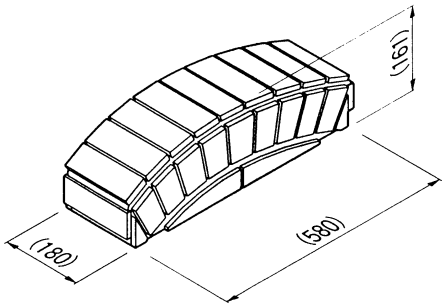
1-8 ポスト用ブロック



1-9 90°コーナーブロック

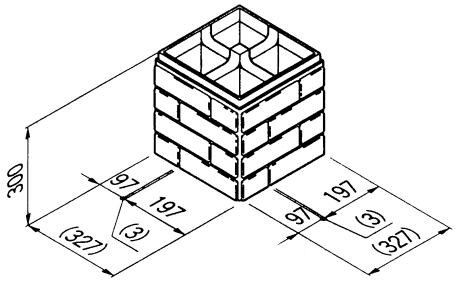


1-10 天端用デザインブロック



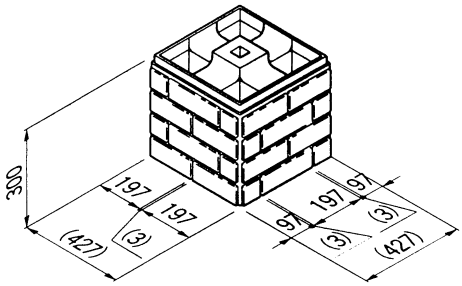
- 天端用デザインブロックを施工の際は「17.天端用デザインブロックの施工」をご覧ください。
- 中心部の笠木1枚は、現場施工となります。

1-11 300角ブロック(327×327×H:300)



- 300角ブロックを施工の際は「18-2 角ブロックの基本施工」をご覧ください。

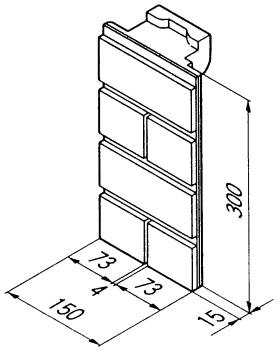
1-12 400角ブロック(427×427×H:300)



- 400角ブロックを施工の際は「18-2 角ブロックの基本施工」をご覧ください。

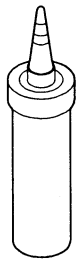
2.端部パネル

2-1 端部パネル(10枚入・2枚入)



● ブリック張付け済の端部処理用のパネルです。

2-2 専用接着剤(333mℓ)



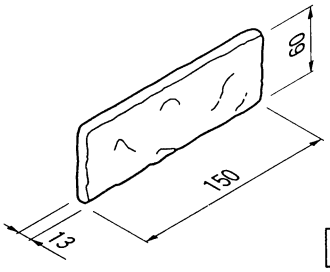
員 数	1本

● 1本で端部パネル約15枚を接着できます。

3.端部用ブリック・笠木の種類および寸法

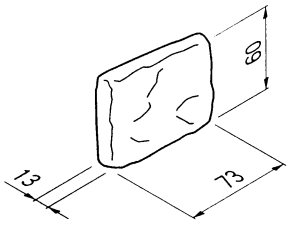
(※ブリック,笠木はコンクリート製品ですので、仕上がり寸法には「バラツキ」があります。)

3-1 端部用ブリック(L=150)



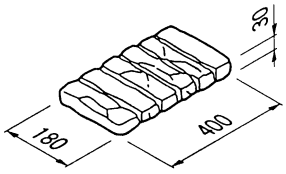
員 数	10枚

3-2 端部用ブリック(L=73)



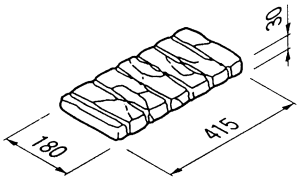
員 数	20枚

3-3 天端笠木(中間用,端部用,両端部用)



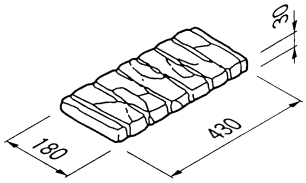
〔中間用〕

員 数	2ヶ



〔端部用〕

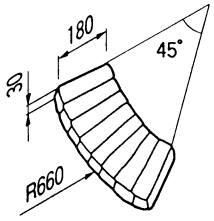
員 数	2ヶ



〔両端部用〕

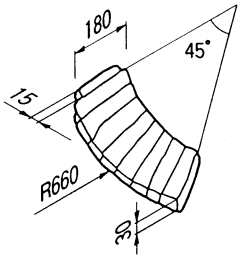
員 数	1ヶ

3-4 天端笠木(Rブロック中間用,端部左用,端部右用,両端部用)



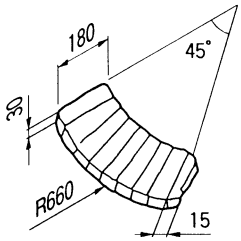
〔中間用〕

員 数	1ヶ



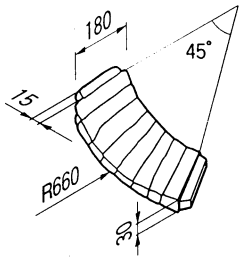
〔左用〕

員 数	1ヶ



〔右用〕

員 数	1ヶ



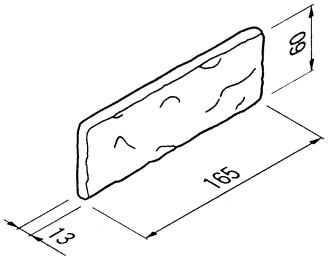
〔両端部用〕

員 数	1ヶ

● Rブロック専用の笠木です。

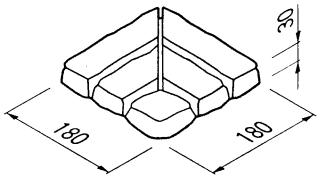
3.端部用ブリック・笠木の種類および寸法(つづき)

3-5 笠木用ブリック(L=165)(50枚入・10枚入)



● 小口面および天端を処理する現場張付けタイプのブリックです。

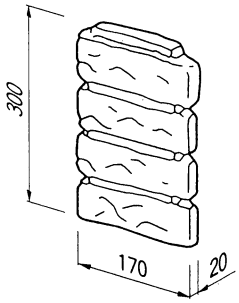
3-6 天端笠木(90°コーナー用)



員数	2ヶ

● 90°コーナーブロック専用の笠木です。

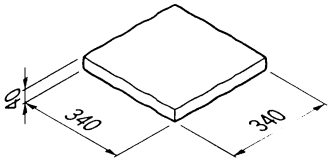
3-7 端部一体型ブリック



員数	5ヶ

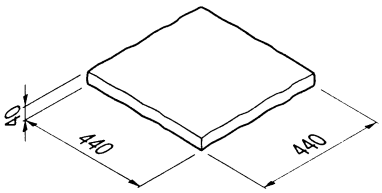
● 小口面を処理する一体型ブリックです。

3-8 天端笠木(300角ブロック用)



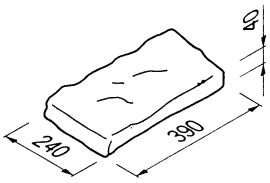
員数	1ヶ

3-9 天端笠木(400角ブロック用)



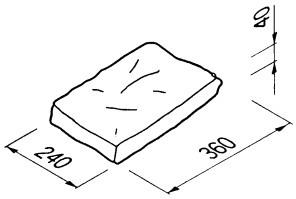
員数	1ヶ

3-10 花台(大)・(小)笠木



〔花台(大)笠木〕

員数	1ヶ

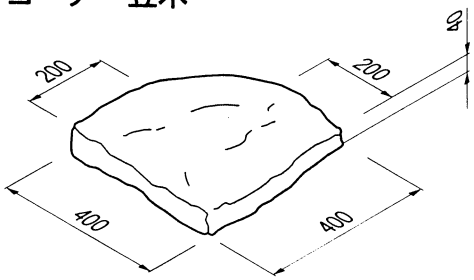


〔花台(小)笠木〕

員数	1ヶ

● 使い方はカタログ本文を参照してください。

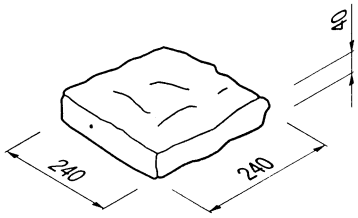
3-11 コーナー笠木



員数	1ヶ

● 使い方はカタログ本文を参照してください。

3-12 240角笠木

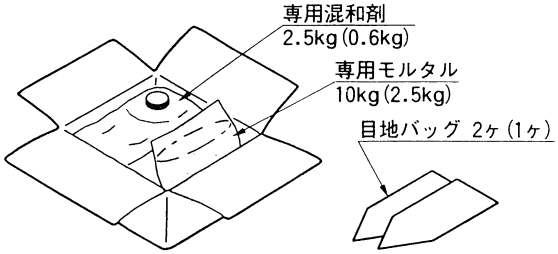


員数	1ヶ

● 使い方はカタログ本文を参照してください。

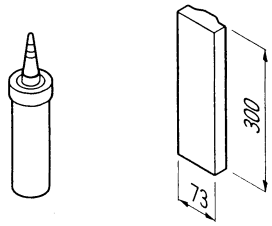
4.その他の部品

4-1 現場張り用モルタルセット（8m分，2m分）



- ブリック現場張付け用の専用モルタルです。天端や小口面積約8m分(2m分)施工できます。詳しくは、同梱の取付説明書をご覧ください。

4-2 ブロック端面ふさぎ材

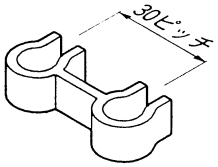


専用接着剤（333mℓ）　ふさぎ材

員数	ふさぎ材 10ケ 専用接着材 1本

- ブロック端面にブリックを張付ける場合のブロックの溝をふさぎ、フラットな下地を作る部材です。

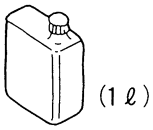
4-3 鉄筋クリップ



員数	100ケ

- タテ筋の仮固定用クリップです。

4-4 防水剤

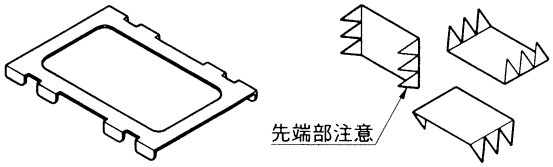


員数	1缶

- 表面保護のため、ブロック施工後に必ず塗布します。

※ 1ℓ当たり約20㎡(ブロック両面塗りで約41ヶ分)施工できます。

4-5 ブロックジョイント材



〔直線用〕

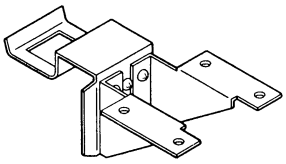
員数	20ケ

〔万能型〕

員数	50ケ

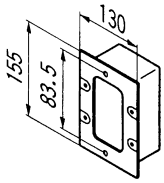
- 1段目のブロック同士を連結し、仮固定する部品です。

4-6 ポスト取付金具



- 基本ブロック,300角・400角ブロックに埋込んで、BA型ポストを取付けるための部品です。ブロック施工と同時に施工する部分がありますので注意してください。詳しくは、同梱の取付説明書をご覧ください。

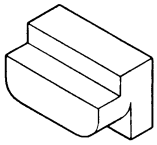
4-7 インターホン取付け台座



員数		
	本　体	1ケ
	クッション材	2ケ
	φ5.5×45ビス	4本
	φ5.9×40プラグ	4本

- インターホン(露出型)をブロックに確実に固定するための台座です。

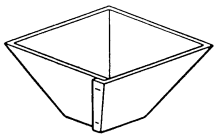
4-8 モルタルせき止め部品



員数	16ケ

- ヨコ筋モルタルを施工しないブロックのタテ穴部分に差込み、モルタルをせき止めます。
- モルタル使用量を抑えることができます。

4-9 モルタル充てん治具



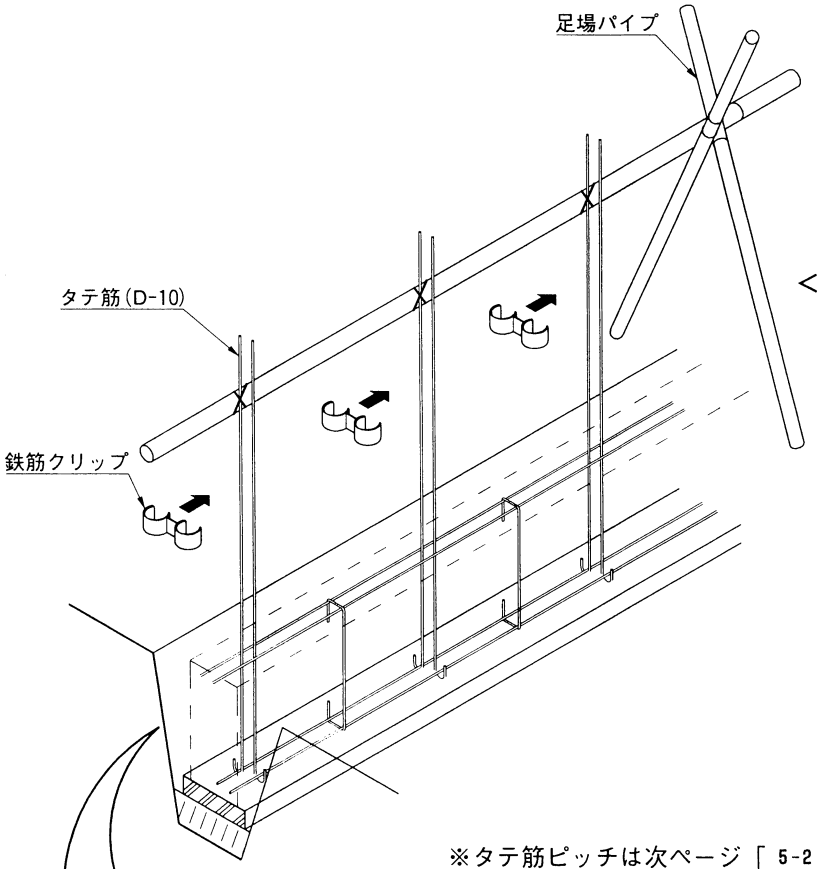
員数	1ケ

(モルタルせき止め部品に同梱)

- ブロックへのモルタル充てん作業が、効率良くきれいに行なえます。

5.基礎の施工

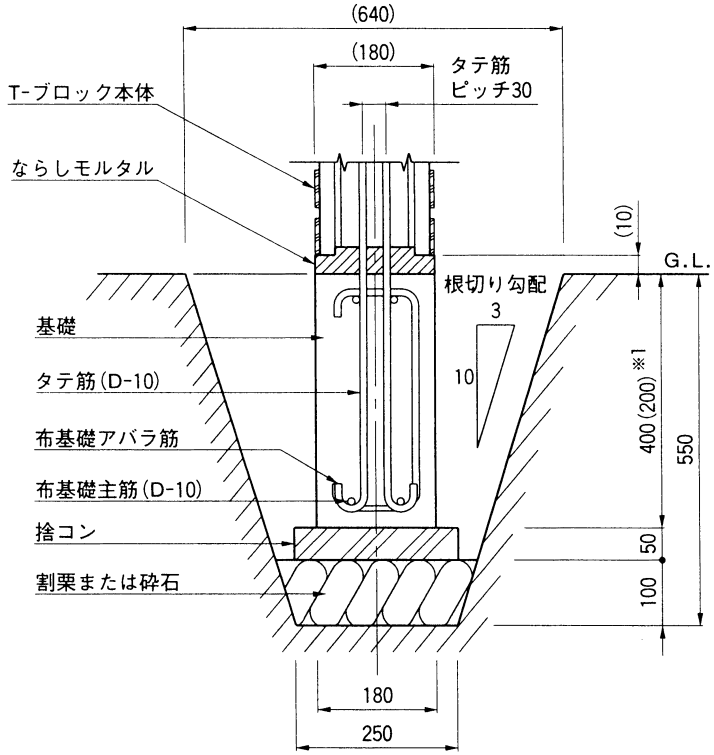
5-1 基礎の施工



<注 意>

- 壁体の構成において基礎施工が強度に大きく影響します。特にタテ筋は必ず基礎に定着させてください。
- 基礎施工が不十分ですと、壁が転倒する危険があります。

※タテ筋ピッチは次ページ「5-2 タテ筋の配筋」をご覧ください。



基礎断面図(5段積み)

<注 意>

- 4段積み以下の場合、基礎深さは200mm以上にしてください。(※1)
  ただし、寒冷地においては凍結深度が優先されます。
- 根切り勾配は一般的な値を示しますが、施工条件等(敷地境界など)で変化します。

歩掛表(数量は1m当たりを示します。)

名 称	規 格	数 量
割栗石	C-40	0.03m³
捨コンクリート	160kgf/cm²以上	0.013m³
基礎コンクリート	180kgf/cm²以上	0.07m³
ならしモルタル	1:3	0.007m³
布基礎主筋	D-10	4m
布基礎主アバラ筋	D-10	0.9m

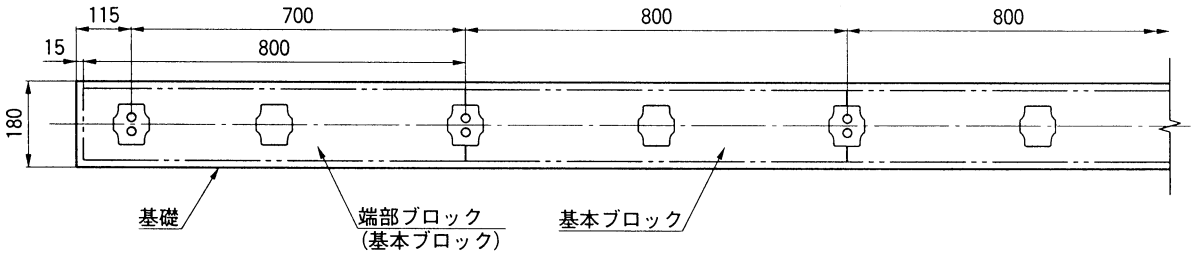
(5段積み)

5.基礎の施工(つづき)

<注 意>

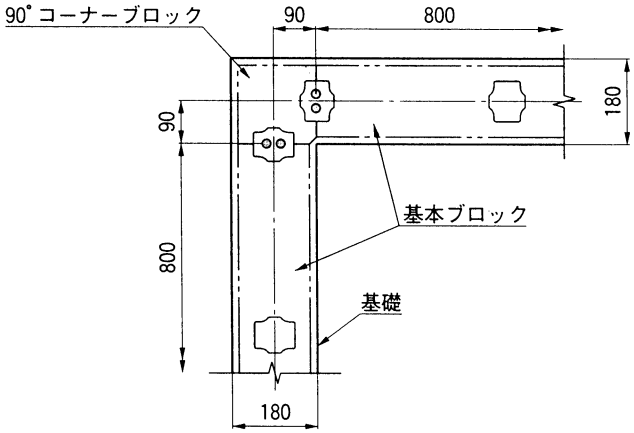
- 必ず鉄筋クリップを使ってD-10の鉄筋２本を30ピッチで施工してください。
- タテ筋のピッチは800を超えないでください。
- モルタルのかぶりを均一にするために、タテ筋はモルタル充てん穴のほぼ中央に施工してください。

5-2. 直線部のタテ筋ピッチ

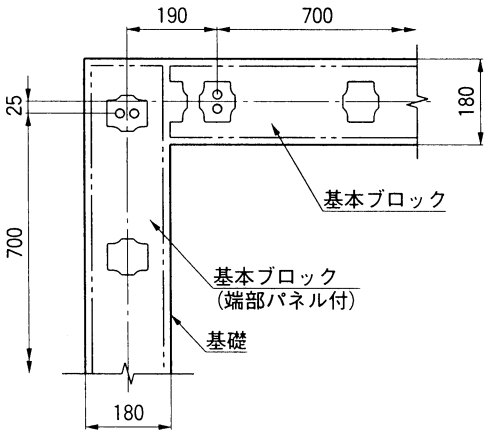


5-3. 90°コーナー部のタテ筋ピッチ

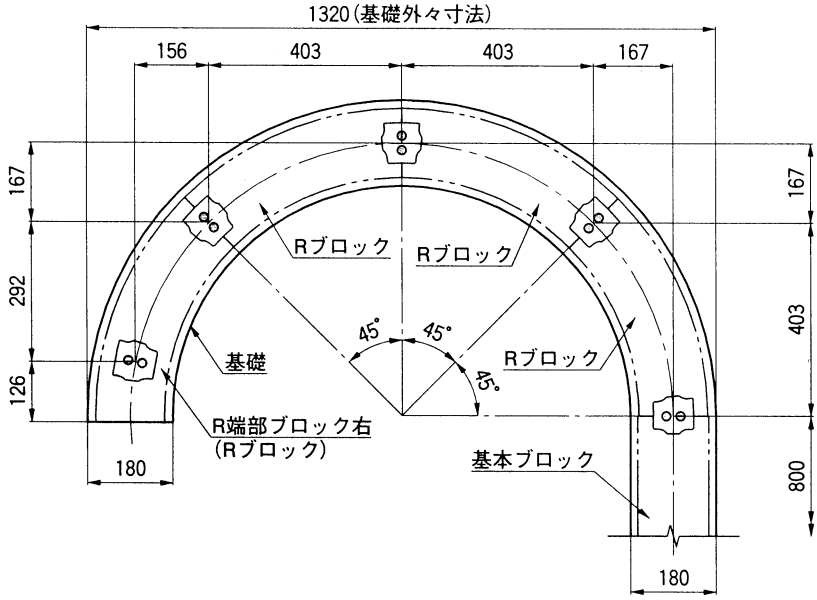
(1)90°コーナーブロックを使った場合



(2)基本ブロック(端部パネル付)と基本ブロックを使った場合

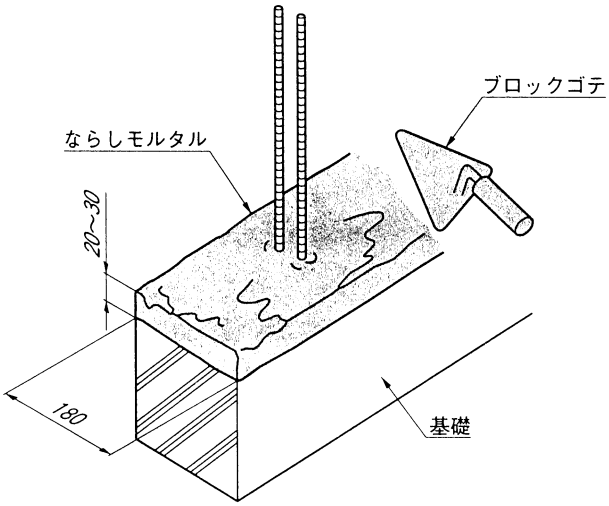


5-4. Rブロックのタテ筋ピッチ



6.ブロックの施工

6-1 ならしモルタルの打設

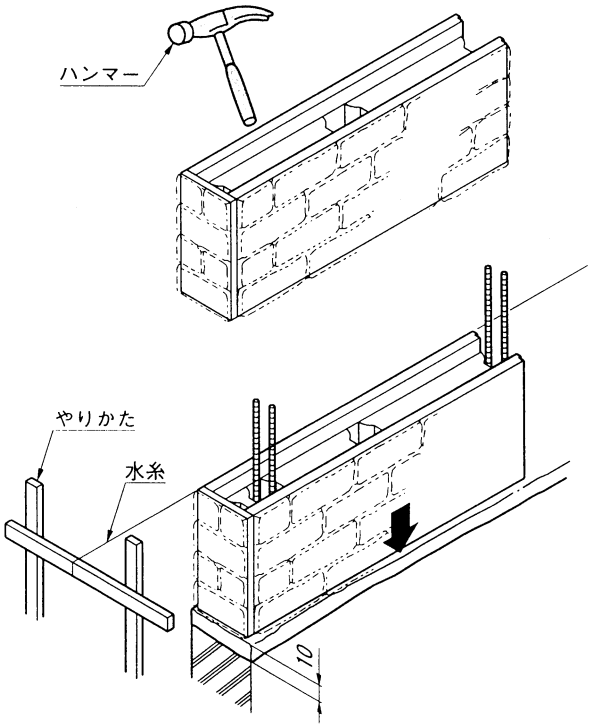


❶ 砂(中目)３：セメント１のモルタルを基礎上に、約20～30㎜の厚さで敷いてください。

<注 意>

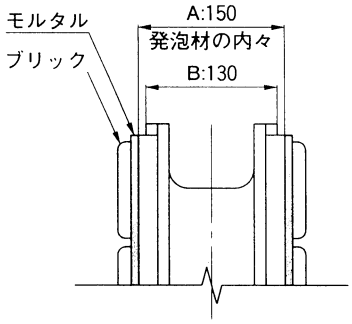
- やや、やわらかめにモルタルを練るとブロックのレベル出しが行ないやすくなります。
- 一度に長くならしモルタルを打ちますと最後は硬くなり、ブロックのレベル出しがむずかしくなるのでブロック２～３個程度ごとにモルタルを打ってください。
- 基礎は必ず水で湿らせてから、ならしモルタルを打ってください。

6-2 ブロックの据え付け・レベル出し ※端部処理を行なってから施工してください。(「9.端部の処理」参照)



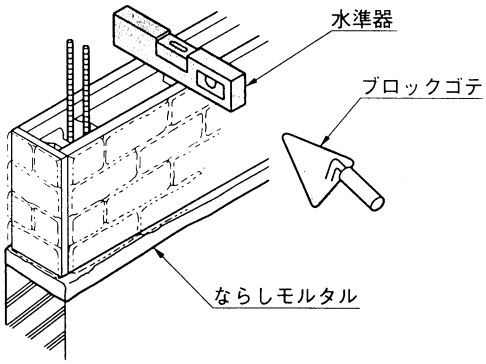
❶ 最初に施工する１段目、端部のブロックはタテ筋の穴をハンマーの柄等であけてください。(タテ穴はふさがっていますが簡単に穴があきます。)

❷ ならしモルタルにブロックが15㎜程度入るようにし、おさえつけて安定させてください。



<注 意>

- ＡかＢに「水糸」をあてる場合の参考寸法です。



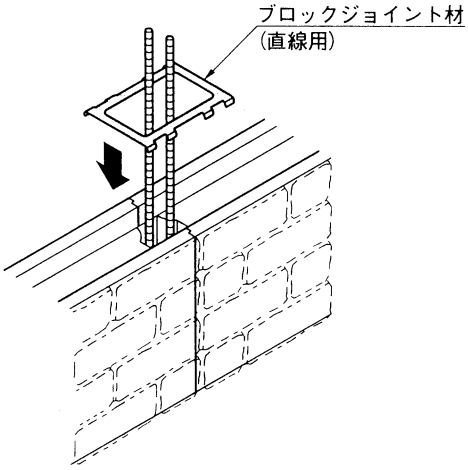
❸ 長手方向のレベルは水糸で見ますが倒れ方向は水準器で確認してください。倒れている場合は倒れている方のならしモルタルのはみ出しをブロックゴテ等で内に入れて、調整してください。

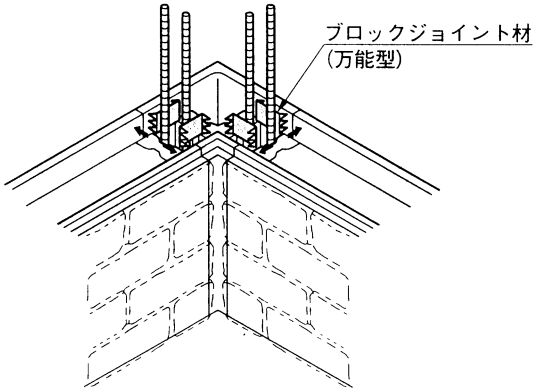
<注 意>

- ２段目以降は、はめ込み式のため「通り」「倒れ」の調整がほとんどできません。
  １段目の施工精度がそれ以降に影響しますので、十分にレベル調整をしてください。

6.ブロックの施工(つづき)

6-3 ブロックの仮固定





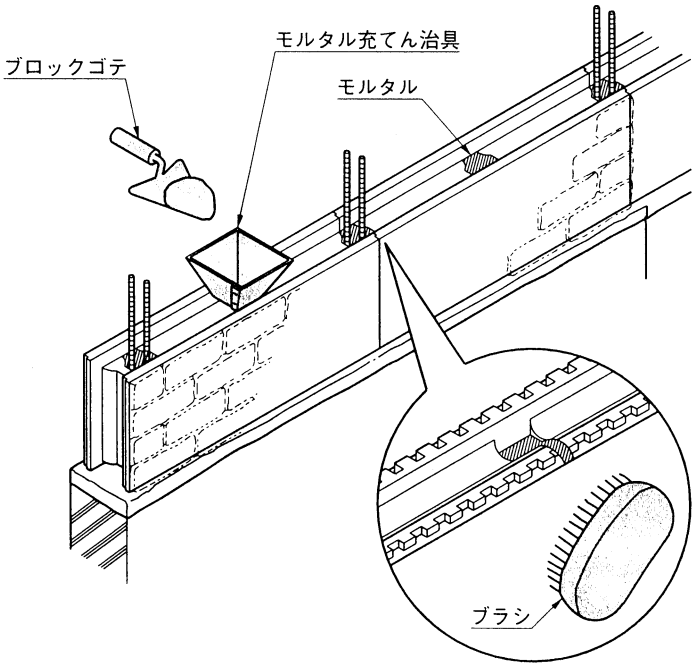
❶ ブロックの「通り」と「倒れ」の調整ができたら、ブロック同士のジョイント部に「ブロックジョイント材」を取付け、ブロックを仮固定させてください。

❷「6-4 モルタルの充てん」にしたがってモルタルを充てんしてください。

<注 意>

- ブロックを積み上げる場合、ブロックジョイント材(直線用)は取りはずしてください。くり返し使用できます。
- ブロックジョイント材(万能型)は取りはずさずに、そのままブロックを積上げてください。
- 先端部がとがっていますので、十分注意して施工してください。

6-4 モルタルの充てん



❶ タテ穴にモルタル(砂3：セメント1)を充てんしてください。充てん場所はタテ筋の穴とその中間の穴です。(W400ブロックには中間穴がありません。)

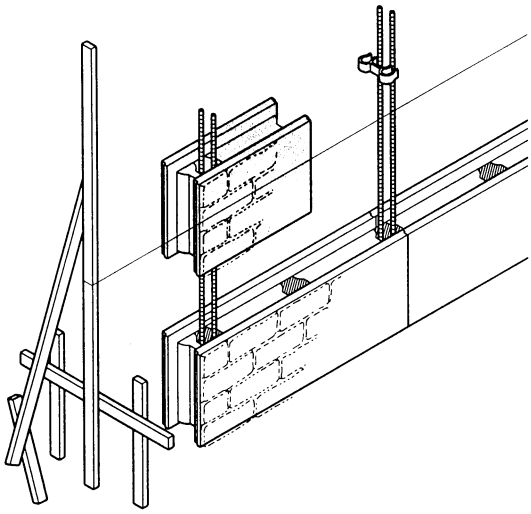
❷ モルタル充てん治具を使用すると、モルタルを効率よくきれいに充てんできます。

<注 意>

- モルタルの配合は、砂3：セメント1としてください。また、左官用の軽量骨材等は使用しないでください。モルタルの強度が低下する可能性があります。
- 砂は中目～細目を使用してください。
- 凹凸に付着したモルタルは、ブラシ等で取り除いてください。そのまま付着させておくと、上段がうまくはまらなくなります。

6.ブロックの施工(つづき)

6-5　2段目のブロックの積上げ



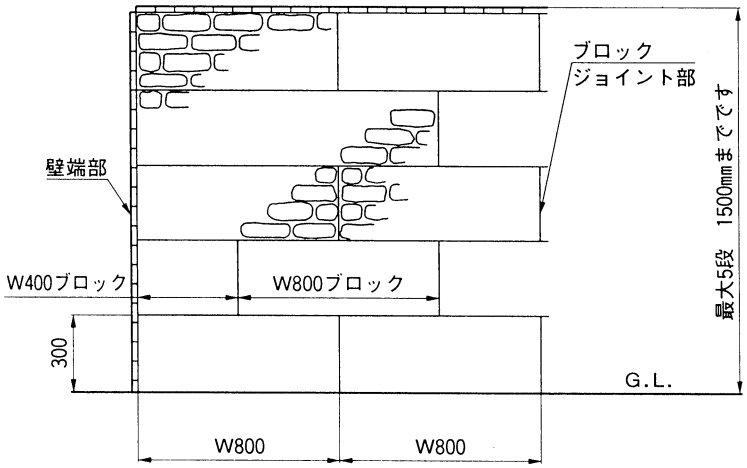
❶「6-6 ブロックの割付け」にしたがい、ブロックの凹凸をカン合させて積上げてください。

<注 意>

- 鉄筋クリップは取りはずしてください。くり返し使用できます。
- 2段目以降の施工は、1段目の充てんモルタルがある程度固まってからの施工をおすすめします。

6-6　ブロックの割付け

(1)直線部分のブロックの割付け　(※ブロックは最大5段積みです。)

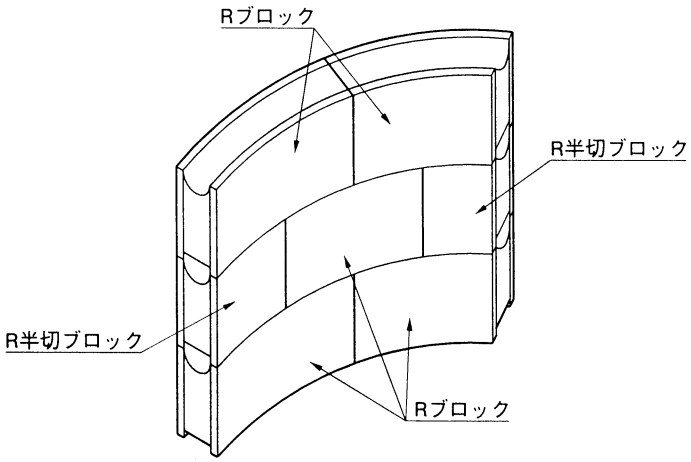


❶ タテ方向のブロックジョイント部が千鳥になるように、基本ブロック(W800)と半切りブロック(W400)を組合わせて積上げる割付けとなります。

<注 意>

- 5段積みを越えて施工しないでください。風や地震により、倒壊するおそれがあります。

(2)R部分のブロックの割付け　(※ブロックは最大5段積みです。)



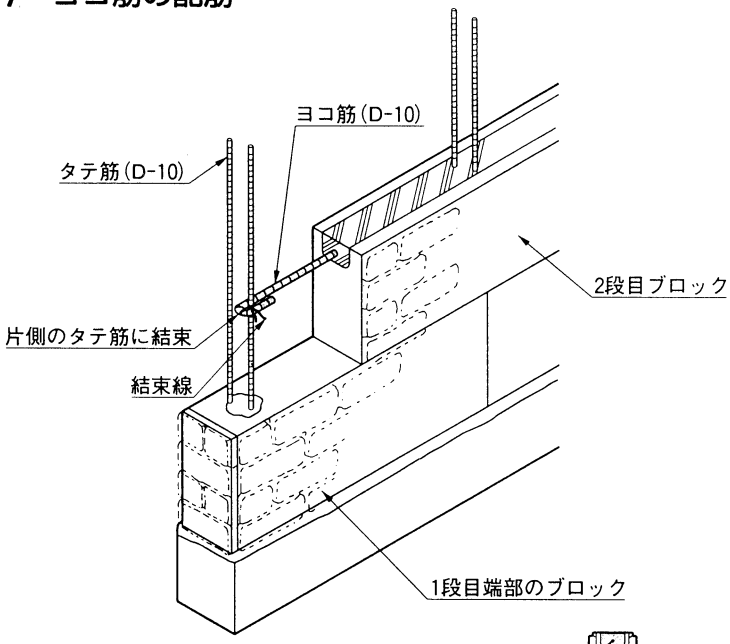
❶ タテ方向のブロックジョイント部が千鳥のなるように、RブロックとR半切ブロックを組合わせて積上げる割付けとなります。

<注 意>

- 5段積みを越えて施工しないでください。風や地震により、倒壊するおそれがあります。

6.ブロックの施工(つづき)

6-7 ヨコ筋の配筋



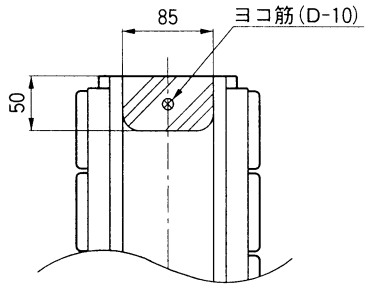


図6-7-1

❶ ヨコ筋は2段目および4段目とすべての場合の最上段に1本入れてください。

<注 意>

- ヨコ筋は、タテ筋のどちらか一方と結束してください。
- ヨコ筋は、モルタルのかぶりを均一にするために中央にセットしてください。(図6-7-1参照)

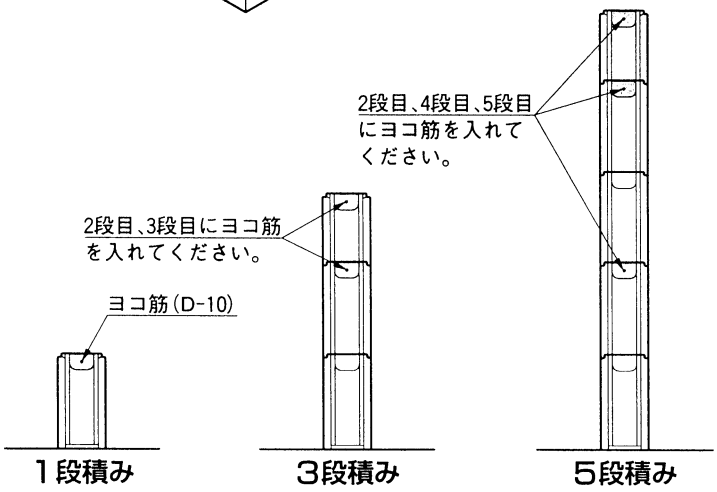


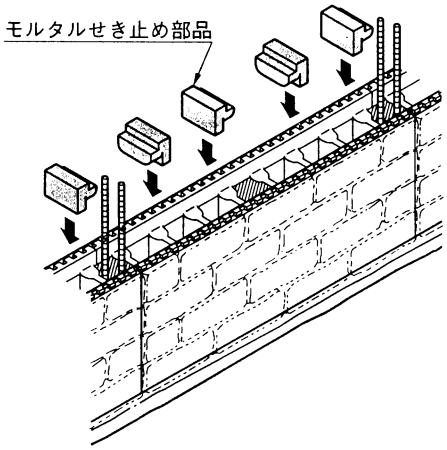
図6-7-2

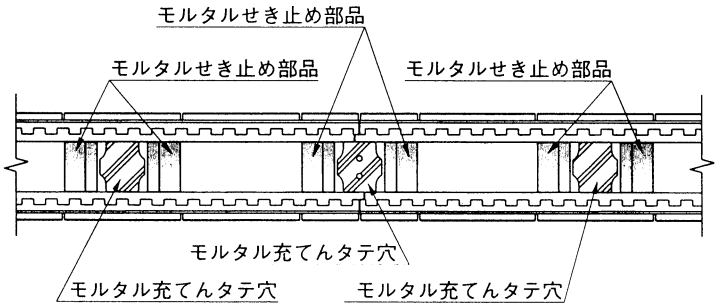
❷ ブロック積上げ段数が奇数段の場合は、図6-7-2のようにヨコ筋を入れてください。

<注 意>

- 階段状のような特殊な積み型の場合、例えば1段目と3段目というようにブロック2段に1本入れると考えてください。

6-8 ヨコ筋を入れないブロックの処理



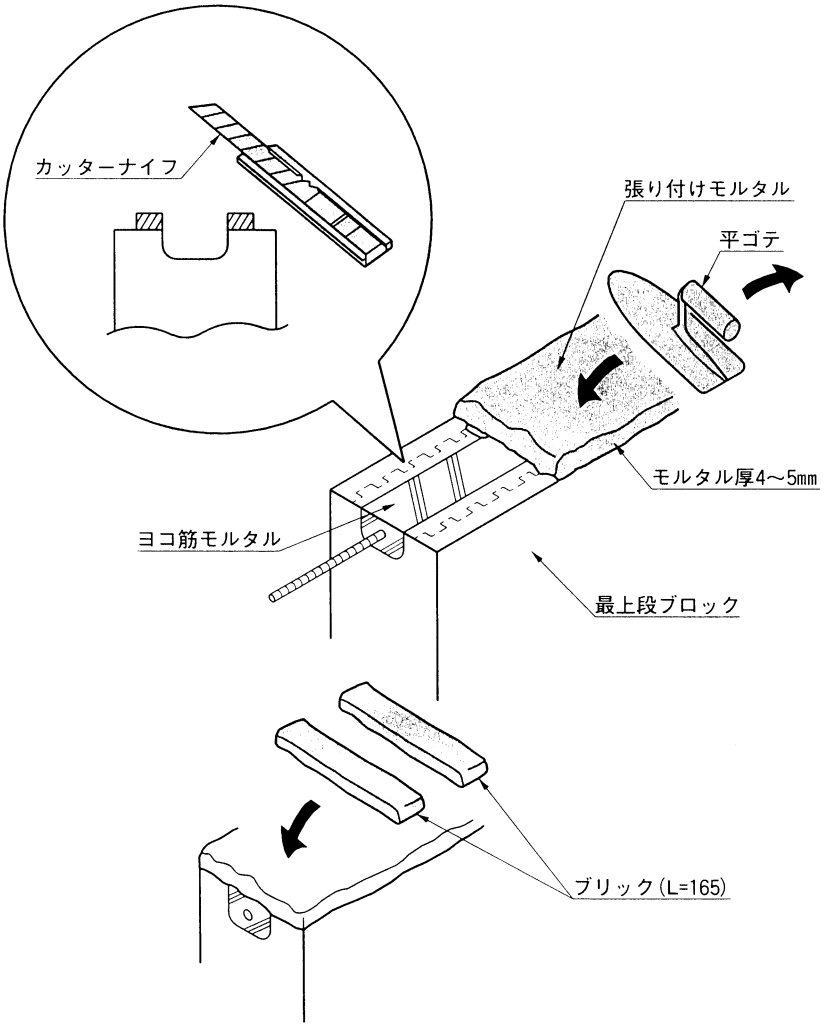


<注 意>

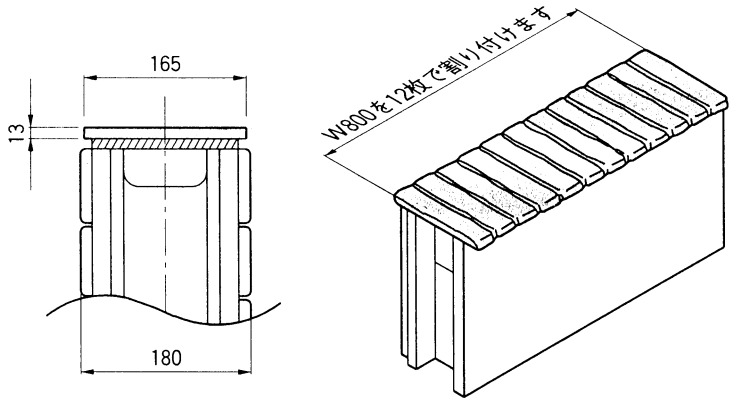
- ヨコ筋を入れないブロックのヨコ筋用ミゾに、タテ穴の充てんモルタルが流入するのを防ぐ処理をすると、充てんモルタルの使用量を抑えることができます。

7.笠木の施工

7-1　端部、笠木用ブリック(L=165)の施工



❶ 最上段部のハメ合い用凸部分をカッターナイフ等で切断してください。
❷ ヨコ筋を配筋してモルタルを充てんし、コテでならしてください。
❸ ヨコ筋モルタルをしばらく乾燥させてください。
❹ 「現場張り用モルタルセット」を練り合わせ、天端部に4～5mm厚で塗布してください。
❺ ブリック(L=165)を改良圧着張り(ブロック側とブリック裏面にモルタルを塗布後、圧着)してください。



天端の取付け

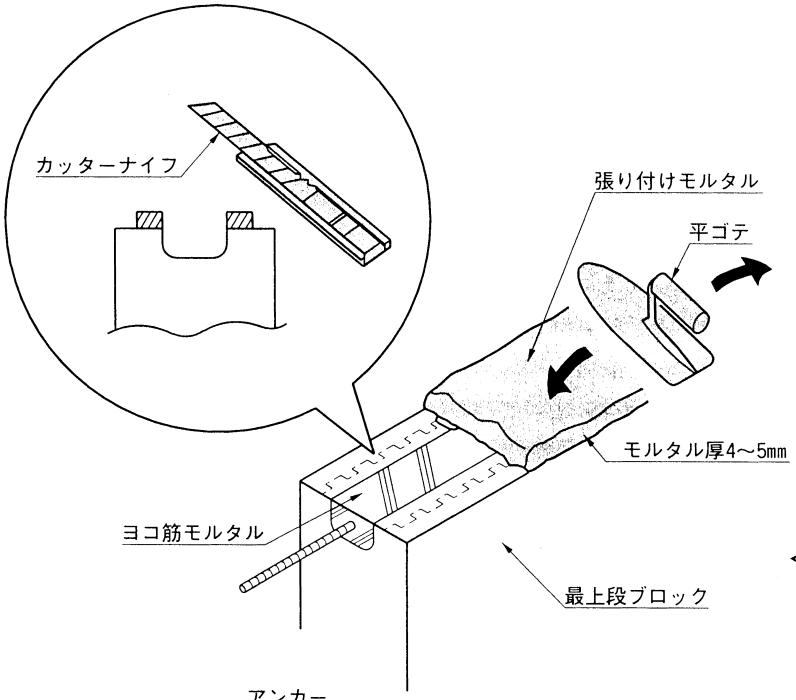
<注 意>

- 圧着するときは、十分加圧してください。(ビブラートでの施工をおすすめします。)「現場張り用モルタルセット」は、付属しています説明書に従い混練してください。
- プランター等の人が乗る可能性がある所へは施工しないでください。次ページの天端笠木を使用してください。

7.笠木の施工(つづき)

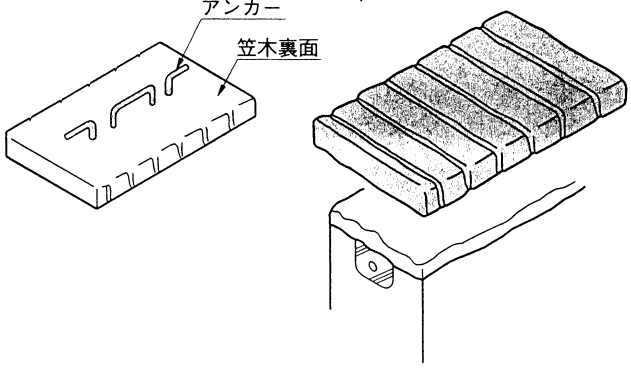
7-2 天端笠木の施工

[図は中間用，端部用で説明していますが、他の笠木も施工方法は同じです。]

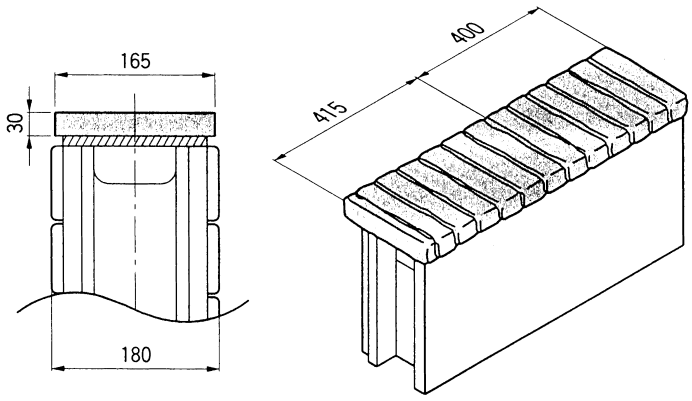


❶ 最上段部のハメ合い用凸部分をカッターナイフ等で切断してください。
❷ ヨコ筋を配筋してモルタルを充てんし、コテでならしてください。
❸ モルタルをブロック上面に約4～5㎜の厚さでならしてください。

<注 意>
- この笠木は「現場張り用モルタルセット」を使用しません。



❹ 笠木裏面のアンカーを手でおこしてください。
❺ 天端笠木を上から十分おさえて張り付けてください。また、ヨコ筋と笠木のアンカーが干渉する場合は少しアンカーをまげてください。

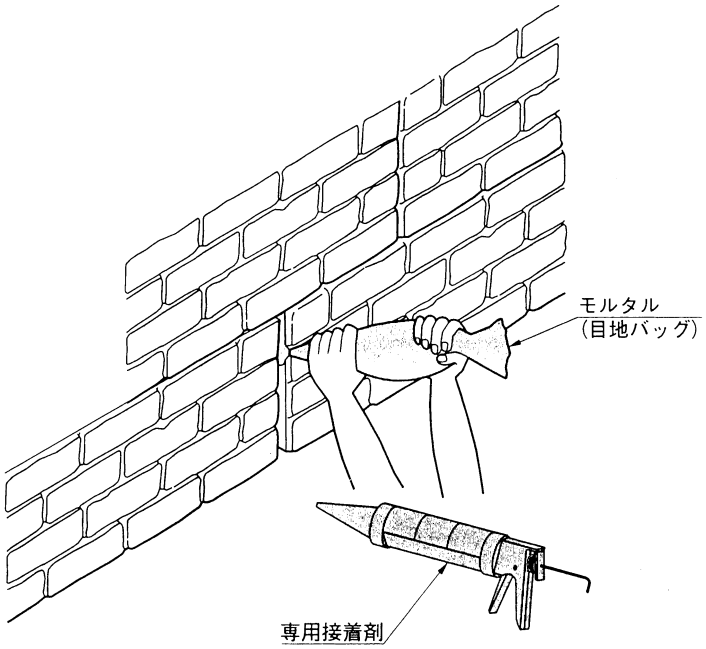


天端の取付け

<注 意>
- 圧着するときは、十分加圧してください。(ビブラートでの施工をおすすめします。)

8.ブロック同士のすき間の処理

8-1　すき間処理方法



<注 意>

- 施工誤差などにより、ブロック同士のすき間が発生した場合は、下記のいずれかの方法で処理してください。

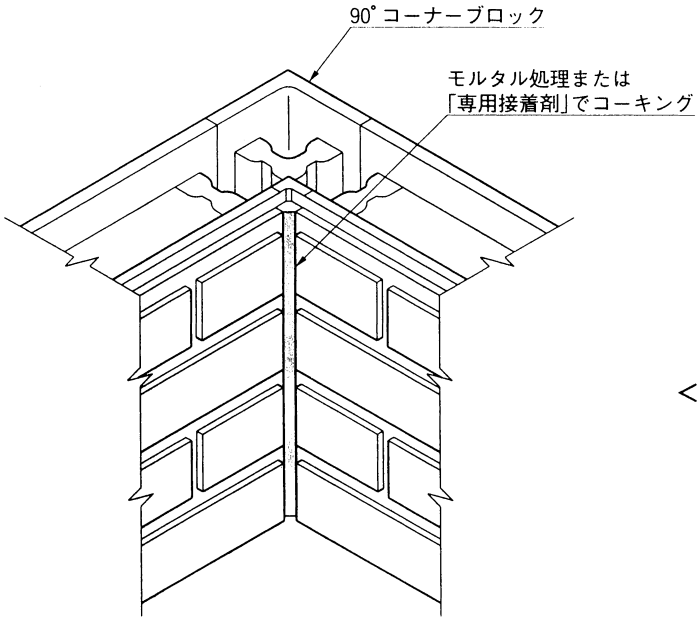
❶「専用接着剤」ですき間を充てんしてください。

❷「現場張り用モルタルセット」を用いてすき間を埋めてください。

<注 意>

- 「専用接着剤」以外は絶対に使用しないでください。発泡材を侵すおそれがあります。
- 目地バッグは、「現場張り用モルタルセット」に同梱されています。
- 「現場張り用モルタルセット」以外のモルタルを使わないでください。目地色が合いません。

8-2　90°コーナーブロックの入隅処理



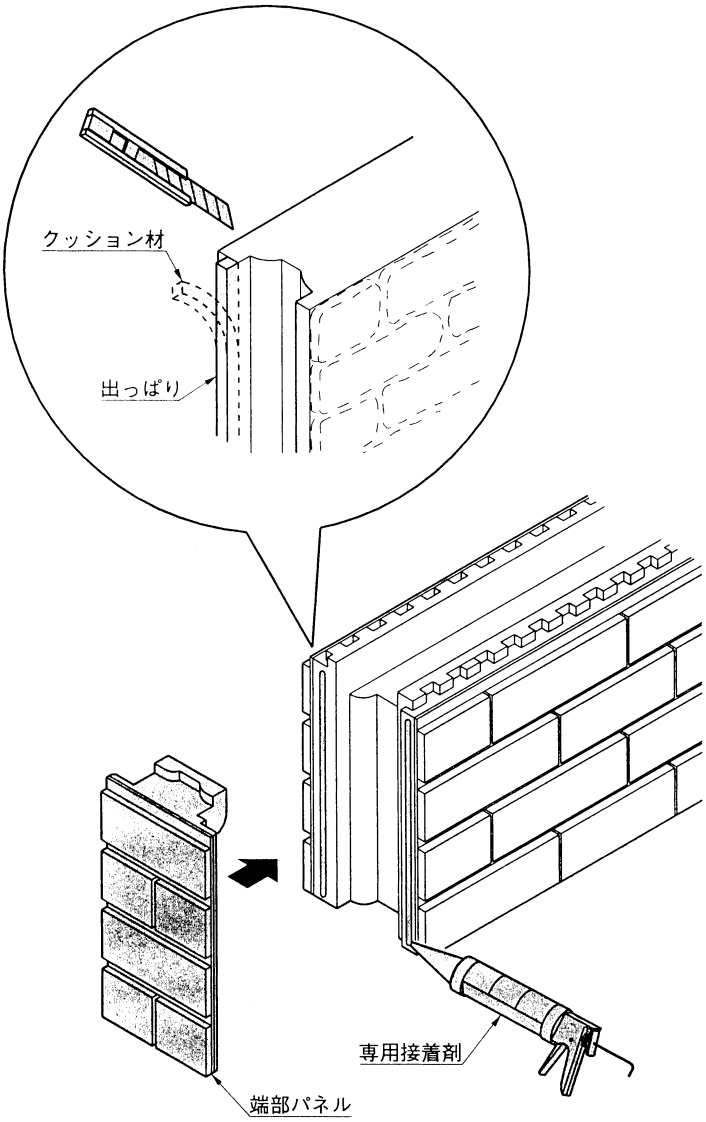
❶ 入隅はすき間があきますので、「現場張り用モルタルセット」または、「専用接着剤」で処理してください。

<注 意>

- コーキングは「専用接着剤」以外は絶対に使用しないでください。発泡材を侵すおそれがあります。

9.端部の処理

9-1 ブロック端面端部パネルの施工



❶「端部になるブロック」のクッション材と出っぱり部を、カッター等で取除いてください。

❷ 左図の位置へ「専用接着剤」を塗布してください。（2ヶ所）

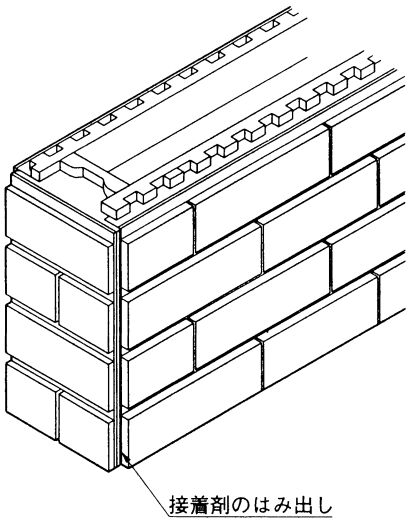
<注 意>

- 「専用接着剤」以外は絶対に使用しないでください。発泡材を侵すおそれがあります。

❸ 端部パネルを手で押えてセットしてください。（接着剤と充分なじむ程度）

<注 意>

- ハンマー等の工具を用いるとパネルが割れるおそれがあります。



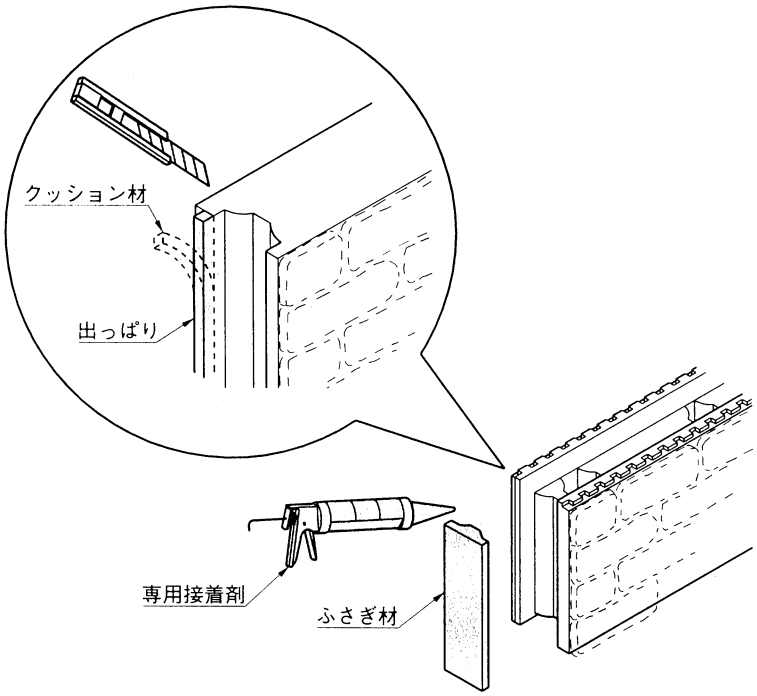
❹「専用接着剤」がはみ出した場合は、「ヘラ」等でならしてください。

<注 意>

- すき間が目立つ場合は、「現場張りモルタルセット」で補修してください。

9.端部の処理(つづき)

9-2 ブロック端面ふさぎ材の施工



❶「端部になるブロック」のクッション材と出っぱり部を、カッター等で取除いてください。

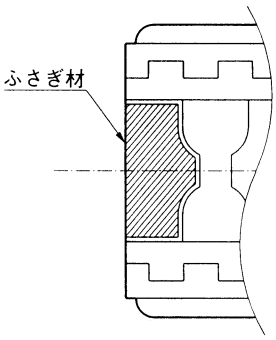
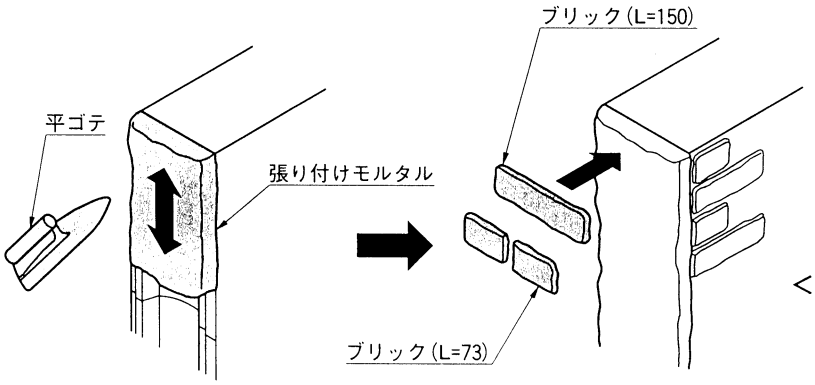


図9-2-1

<注 意>

- ふさぎ材には上下がありますが、刻印がありますので刻印に従って接着してください。(図9-2-1参照)

9-3 端部・笠木用ブリック(L=150)、端部用ブリック(L=73)を使用する場合



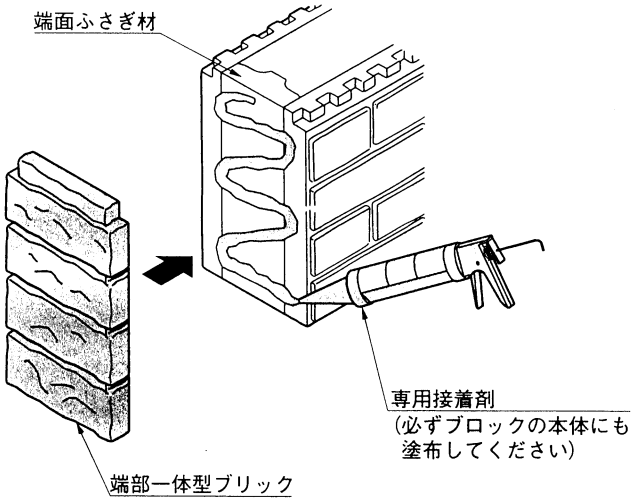
❶「現場張り用モルタルセット」を練り合わせ、小口部に4～5㎜厚で塗布してください。

❷ ブリックを改良圧着張り(ブロック側とブリック裏面にモルタルを塗布後、圧着)してください。

<注 意>

- 圧着するときは、十分加圧してください。(ビブラートでの施工をおすすめします。)

9-4 端部一体型ブリックを使用する場合



❶ 端部一体型ブリックを接着してください。(接着剤は、端面ふさぎ材セットに同梱されているものを使用します。)

<注 意>

- 接着剤が硬化するまで(12時間)はテープ等で仮固定してください。
- 「専用接着剤」以外は絶対に使用しないでください。発泡材を侵すおそれがあります。

10.コーナー部の処理

10-1 90°コーナーの場合

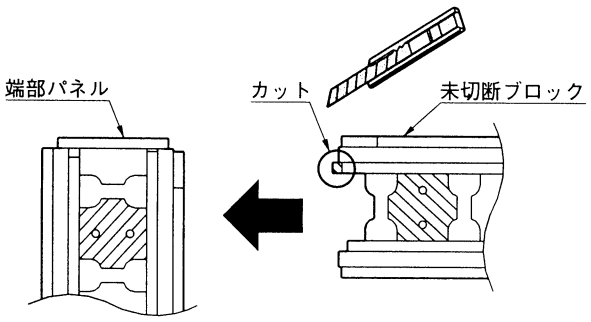


図10-1-1

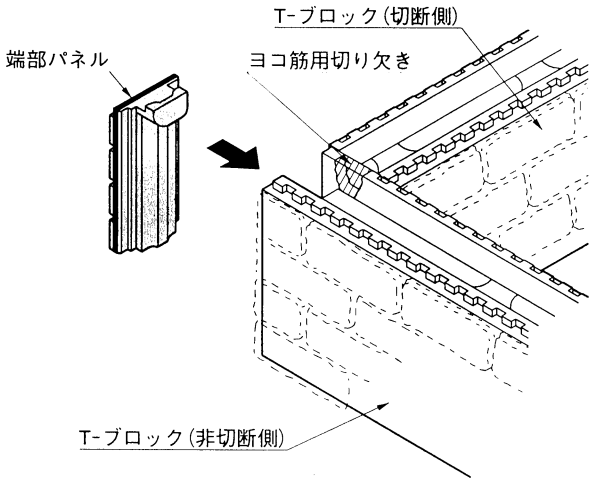
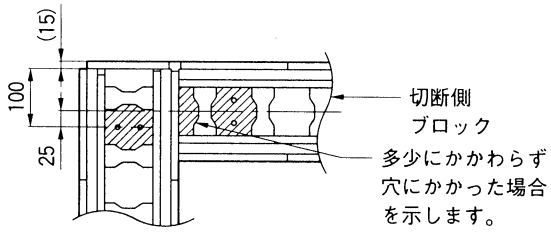
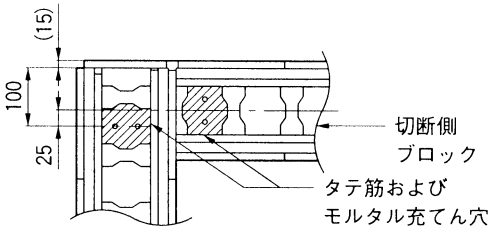


図10-1-2



[切断面にモルタル穴がかかる場合]



[切断面が発泡材の場合]

図10-1-3

❶ ブロック同士をつき合わせて施工してください。つきあてる側のブロックの出っぱり部を、カッター等でカットしてください。(図10-1-1参照)

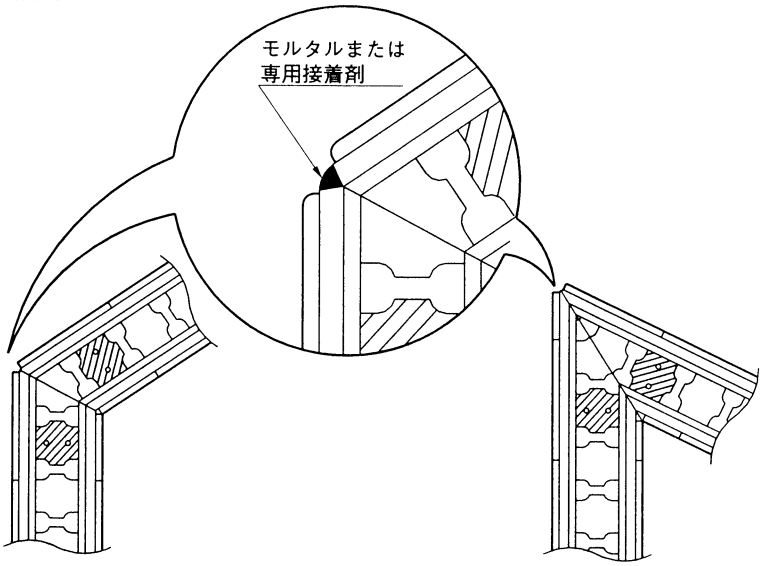
❷ 隠れない端面側は端部パネルを接着してください。(詳細は「9.端部の処理」を参照してください。)

❸ ヨコ筋の入る偶数段および最上段は、ブロックにヨコ筋用切り欠きが必要です。(図10-1-2参照)
ハンドグラインダー等で切り欠いてください。

<注 意>

- コーナー部のモルタル充てんおよびタテ筋の配筋は図10-1-3を参照してください。

10-2 90°以外の場合



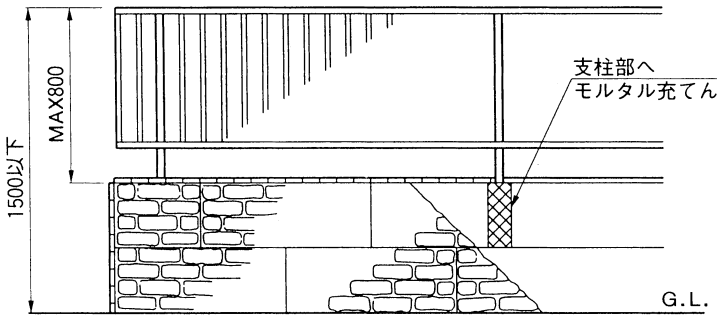
❶ 施工現場の角度に合わせてブロックを切断し、つき合わせてください。

❷ タテ筋は切断による欠けがない一番端側の穴に施工してください。

❸ 出隅側のブロックタテ目地部は、「8-1 すき間処理方法」にしたがい、「現場張り用モルタルセット」または、「専用接着剤」にて充てんしてください。

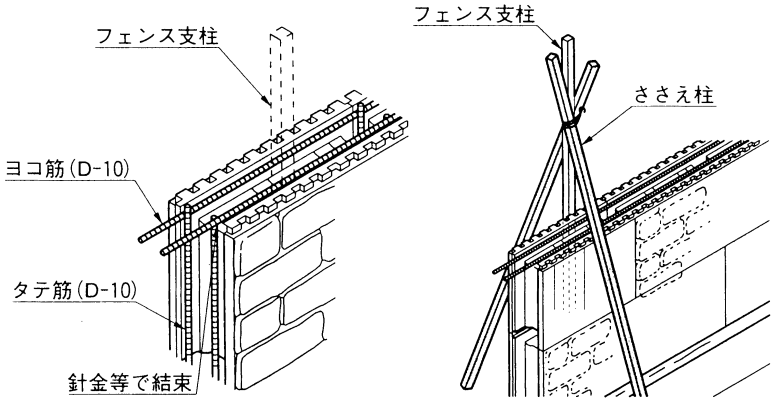
11.フェンスの取付け

11-1　フリーポールフェンスの納まり



<注 意>

- T－8までのフリーポールフェンスが施工できますが、T－ブロック高さとの合計でH1500mm以下としてください。



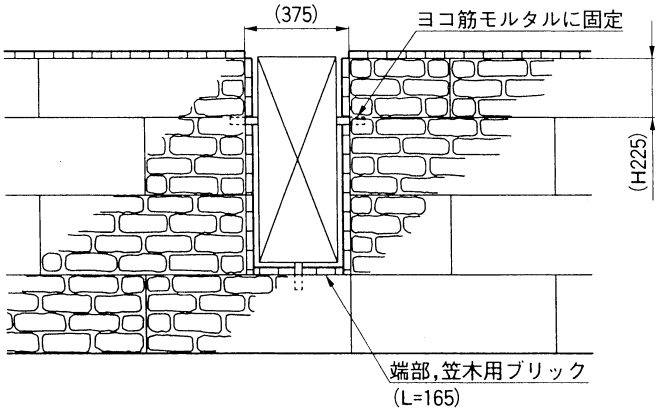
❶ フェンスの支柱を施工する場合は、天端のヨコ筋を2本とてください。
(D-10鉄筋を使用してください。)

❷ 通常のモルタル充てん穴(「6.ブロックの施工・6-2 ブロックの据え付け・レベル出し」参照)とフェンス支柱が施工される穴に、モルタルを充てんしてください。

<注 意>

- ブロック施工と同時にフェンス支柱を施工しますが、フェンス本体は充てんしたモルタルが硬化してから取付けてください。

11-2　フィックスフェンスの納り図



11-3　90°コーナーブロックを使用する場合

(1)コーナー柱がセンターになる場合

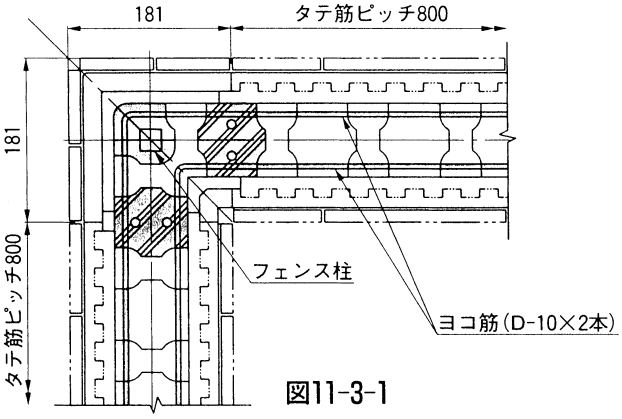


図11-3-1

❶ コーナーブロックの穴にフェンス柱を入れ、モルタルを充てんしてください。
(モルタルは柱が取付くブロックのみ充てん可能です。)

❷ ヨコ筋はD-10を2本としてください。

<注 意>

- フェンス取付けは、モルタルが十分に硬化してから行なってください。

11.フェンスの取付け(つづき)

11-3 つづき

(2)コーナー柱がセンターにならない場合

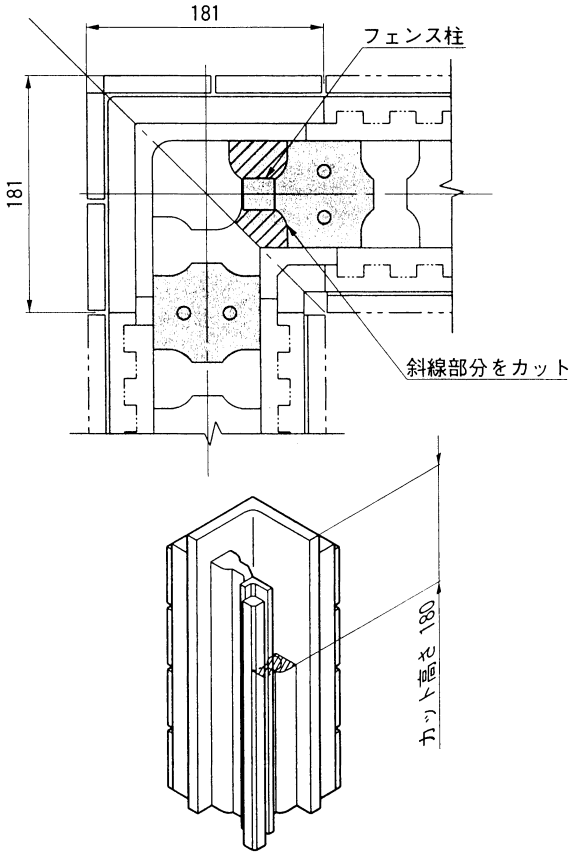
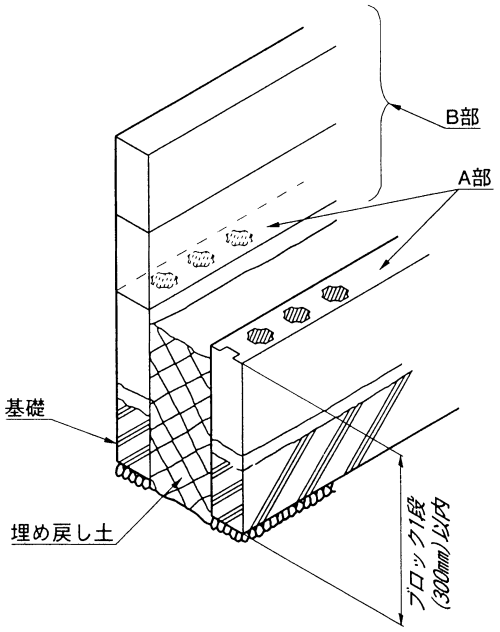


図11-3-2

❶ フェンス柱のあたる部分の発泡芯材をカッター等でカットしてください。
❷ フェンス柱を入れた穴にモルタルを充てんしてください。(モルタルは柱の取付くブロックのみです。)
❸ ヨコ筋はD-10を2本としてください。(図11-3-1参照)

<注 意>
- フェンス取付けは、モルタルが十分硬化してから行なってください。

12.プランター(土留め)の施工

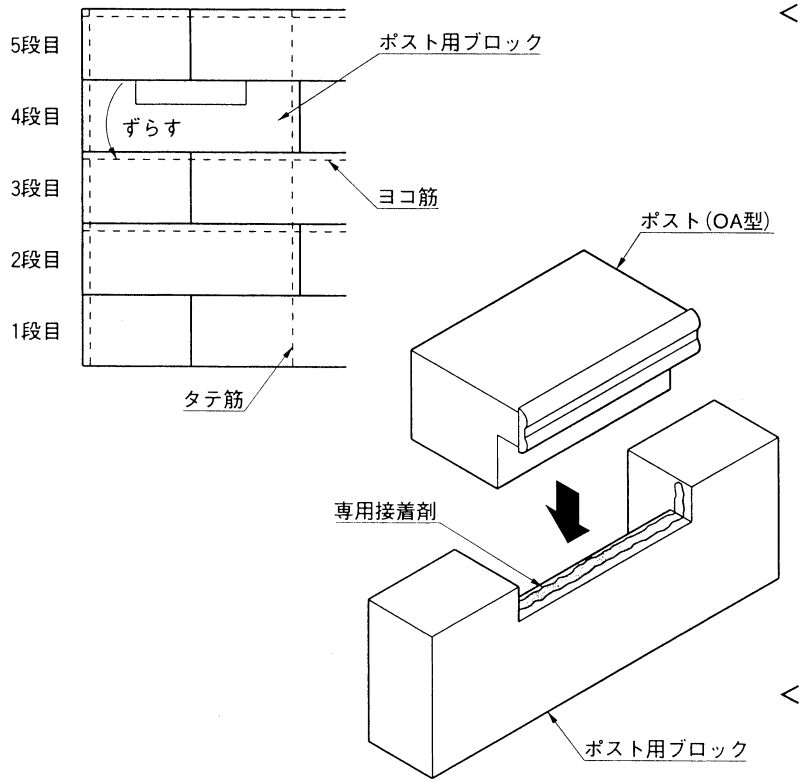


❶ 1段目は土圧を受けるため、ブロックすべての穴にモルタルを充てんしてください。(A部)
❷ 2段目以降は通常のモルタル充てんを行なってください。(「6.ブロックの施工・6-2 ブロックの据え付け・レベル出し」を参照してください。)(B部)

<注 意>
- 基礎,配筋は通常通りで施工してください。
- 花壇とする場合は、基礎まわりの水はけに注意してください。

13.ポストの取付け

13-1　ポスト用ブロックを使用する場合（ポストは、TOEXポストOA型専用）



<注 意>

- ポスト用ブロックを用いポストを取付ける場合、ポストが入る段にはヨコ筋を配筋することができません。
  左図のように4段目にポストを取付ける場合は、ヨコ筋を3段目にずらして施工してください。

❶ ポストを取付ける前に、あらかじめポストに組付けられているスペーサーを、ポスト在中の取付説明書にしたがい取りはずしてください。

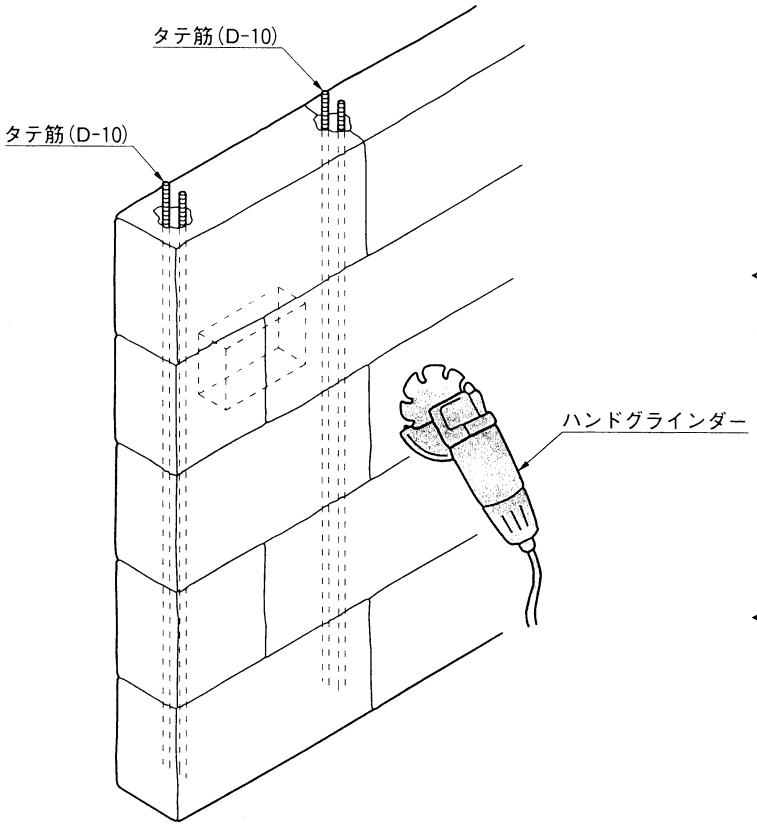
❷ ポスト用ブロックにポスト(TOEXポストOA型)を差込み、「専用接着剤」で接着してください。

❸ 通常の基本ブロック等と同様にブロックを積んでください。

<注 意>

- 「専用接着剤」以外は絶対に使用しないでください。発泡材を侵すおそれがあります。

13-2　埋込型ポストの場合（TOEXポストOA型以外）



❶ タテ筋とタテ筋の間に埋込型ポストが取付けられます。上の段を積む前にポストの箱の外寸法＋2～3㎜でハンドグラインダー等でカットしてください。

<注 意>

- 発泡部分はカッターで切って、穴の大きさを調整してください。
- 口金タイプのポストも取付けは可能ですが、ブロックのカットは注意して行なってください。

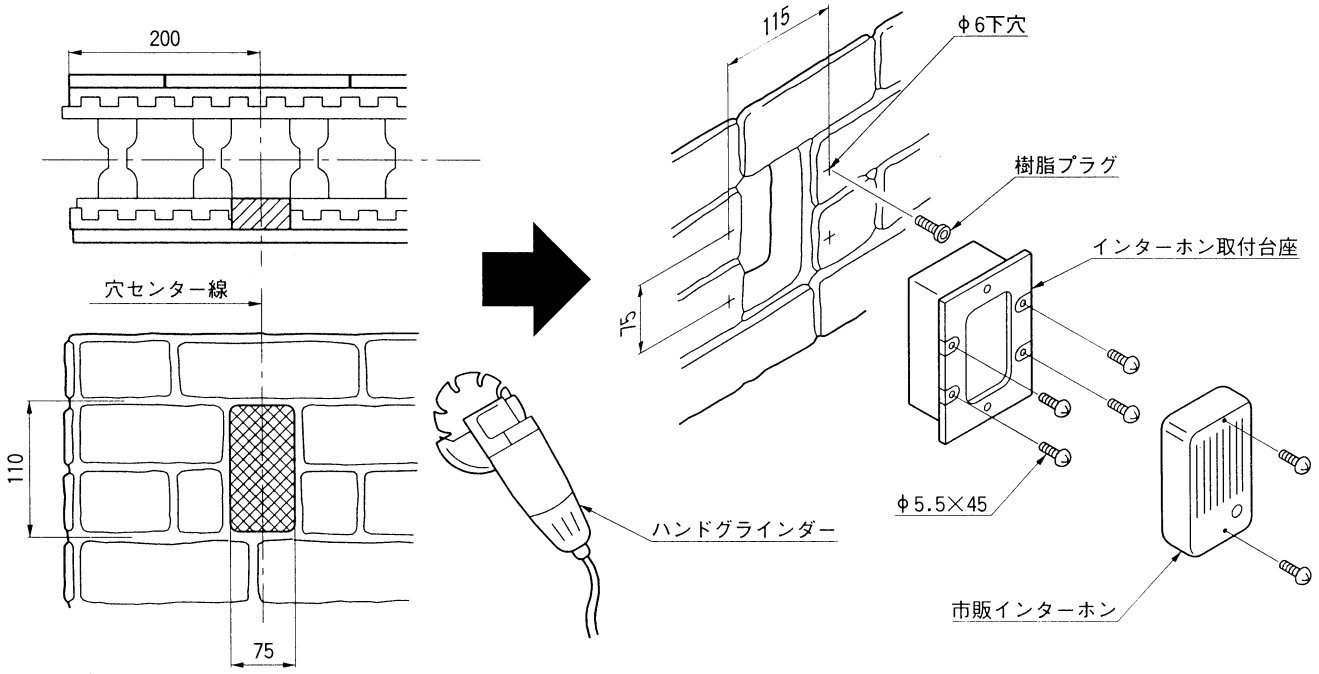
❷ 「専用接着剤」でポスト回りを接着してください。

<注 意>

- 「専用接着剤」以外は絶対に使用しないでください。発泡材を侵すおそれがあります。

14.インターホンの取付け

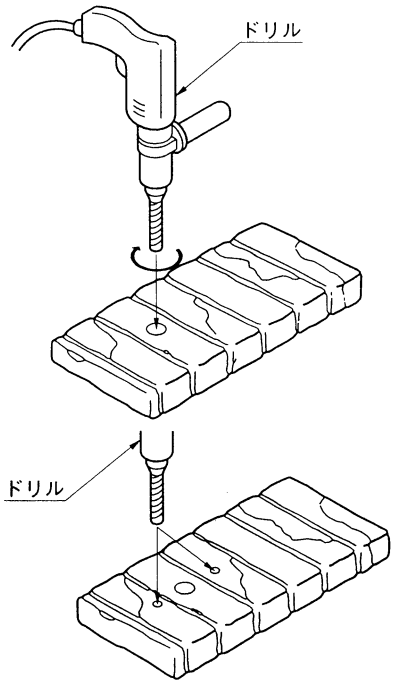
（※CD管等の電気配線，配管は基礎施工時よりあらかじめ計画し、埋設してください。）



❶ ブロックのタテ穴のセンター線を中心にタテ110㎜，ヨコ75㎜の穴をハンドグラインダー等であけてください。
❷ φ６の下穴を４ヶ所、コンクリートドリルであけ、付属の樹脂プラグを差込んでください。
❸ インターホンの取付台座をあけた穴にいれ、φ5.5×45のビスで固定してください。
❹ 市販の露出型インターホンをインターホン台座に取付けてください。

<注 意>
- モルタル充てん用のタテ穴への取付けはしないでください。

15.照明の取付け



❶ 天端笠木（厚み30㎜）のみに現場加工にて照明の取付けが可能です。

<注 意>
- 笠木をブロックに施工する前に、コード用の穴とプラグアンカー用の穴をドリルであけてください。（プラグアンカーは市販品を使用してください。）

16.窓枠を取付ける場合の施工

<注 意>

● 窓枠を取付ける仕様でＴーブロックを施工する場合は、通常の施工と比べ、タテ筋ピッチおよびヨコ筋配筋位置が異なります。充分注意して施工してください。

16-1 窓枠(Ａタイプ)を取付ける場合

❶ 窓枠は図16-1-1,16-1-2のように４段目(斜線部)に施工することを標準としています。

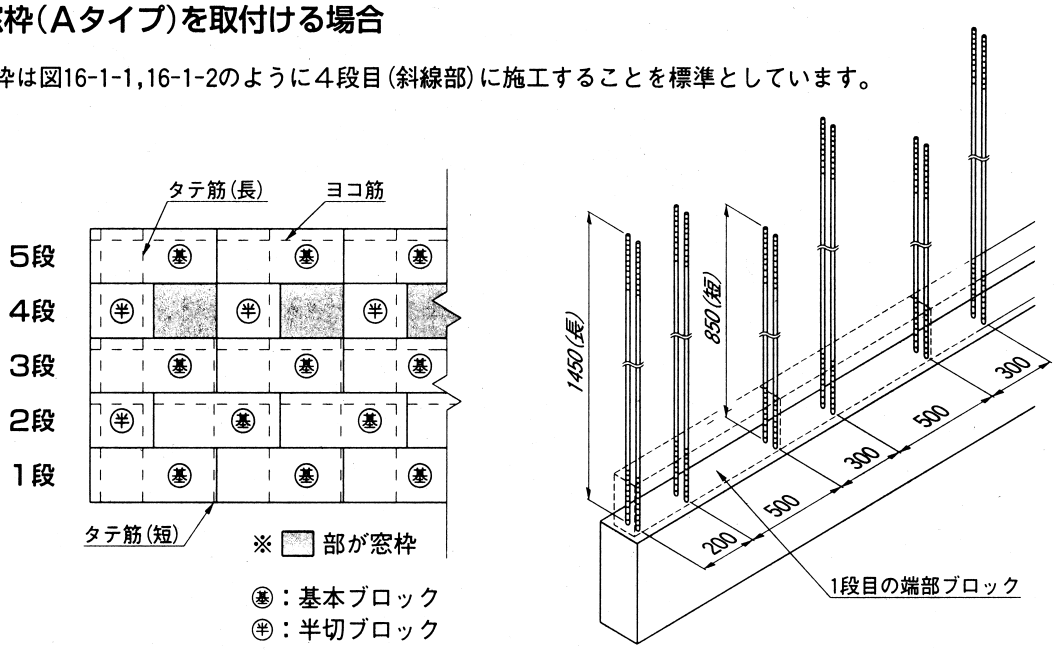


図16-1-1

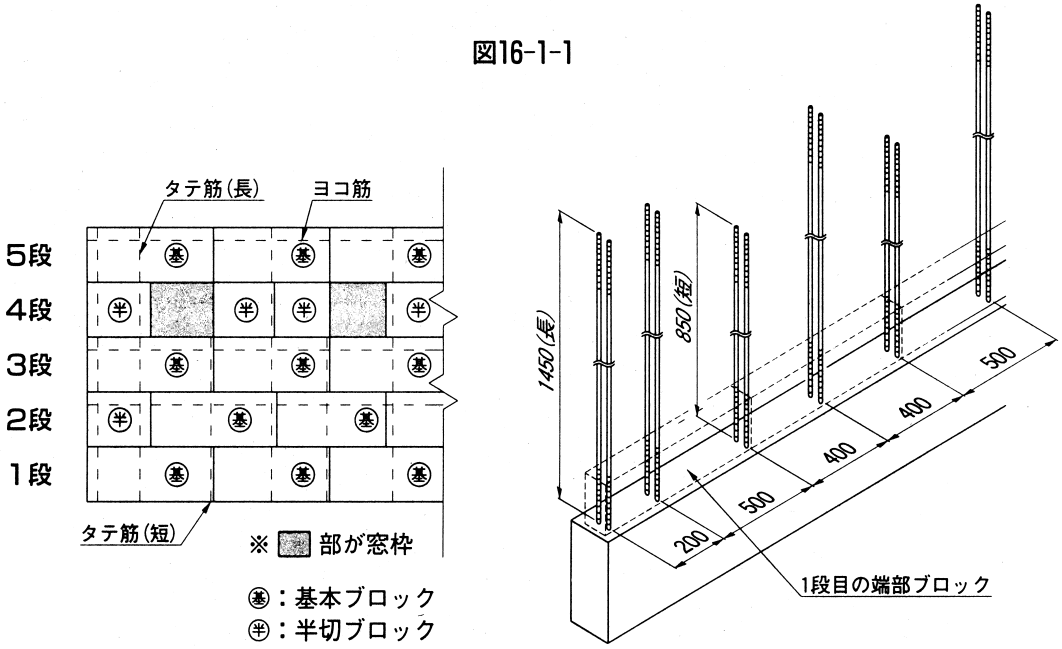


図16-1-2

<注 意>

● 上記以外の位置に窓枠が取付く場合、下記の要領にしたがってタテ筋・ヨコ筋を配筋してください。

❶ タテ筋は800ピッチ以内になるようにしてください。

❷ ヨコ筋は窓枠が入る段(通常は４段目)をさけ、連続して２段ブロックを積むうち、少なくとも１段に配筋してください。

<注 意>

● Ｔーブロックの施工はあらかじめ施工図にて、ブロックの割付け、配筋、モルタル充てん箇所を確認してください。

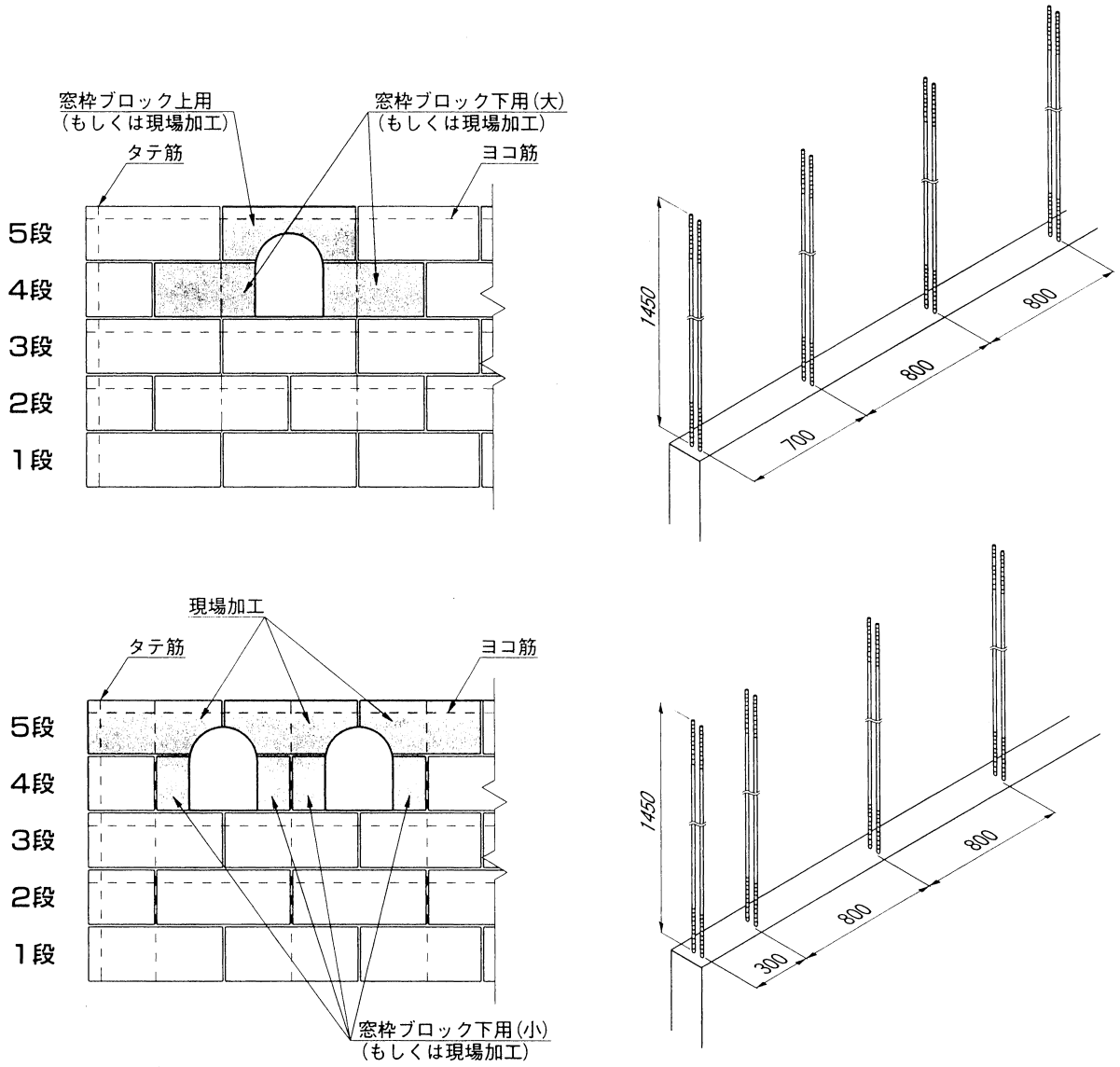
16.窓枠を取付ける場合の施工(つづき)

<注 意>

- 窓枠を取付ける仕様でＴーブロックを施工する場合は、通常の施工と比べ、タテ筋ピッチおよびヨコ筋配筋位置が異なります。充分注意して施工してください。

16-2 窓枠(Ｂタイプ)を取付ける場合

❶ 窓枠を取付けるためには、専用の「窓枠ブロック」を使用するか、基本ブロックを現場で加工してください。
❷ 本施工の前にブロックを仮組みし、窓枠が取付く位置を十分確認してください。
❸ 加工が必要なブロックを確認し、他ブロックと分けておいてください。
下図にタテ筋・ヨコ筋の配筋例を掲載します。参考にしてください。



<注 意>

- 上記以外の位置に窓枠が取付く場合、下記の要領にしたがってタテ筋・ヨコ筋を配筋してください。

❶ タテ筋は800ピッチ以内になるようにしてください。
❷ ヨコ筋は窓枠が入る段(通常は４段目)をさけ、連続して２段ブロックを積むうち、少なくとも１段に配筋してください。

<注 意>

- Ｔーブロックの施工はあらかじめ施工図にて、ブロックの割付け、配筋、モルタル充てん箇所を確認してください。

17.天端用デザインブロックの施工

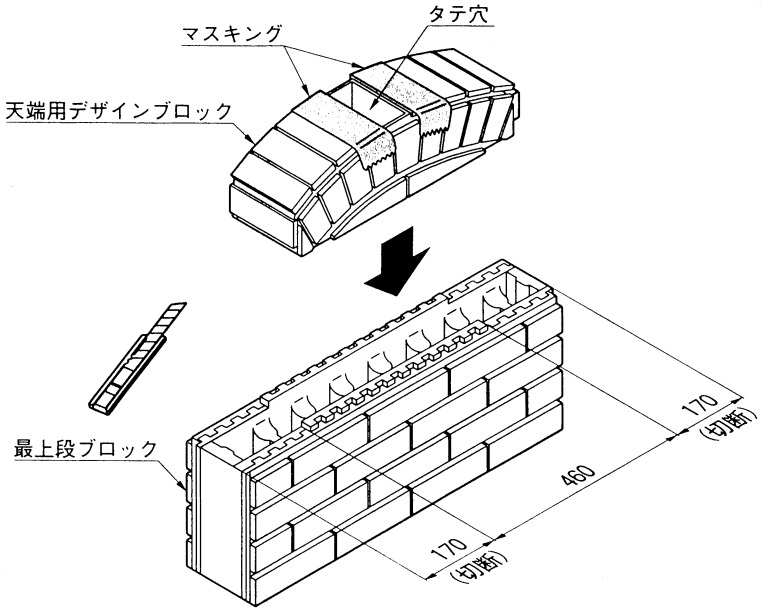
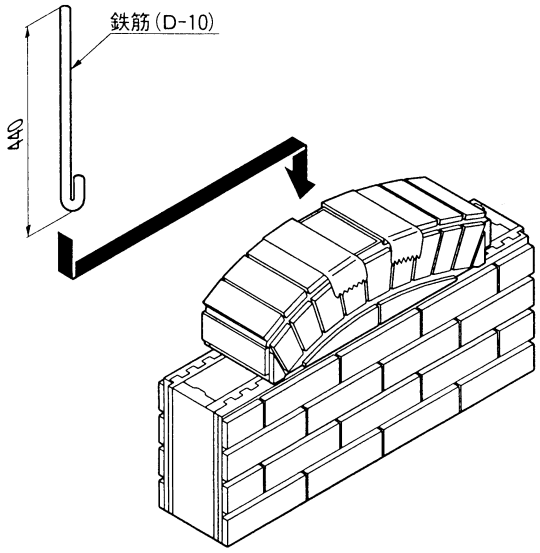


図17-1

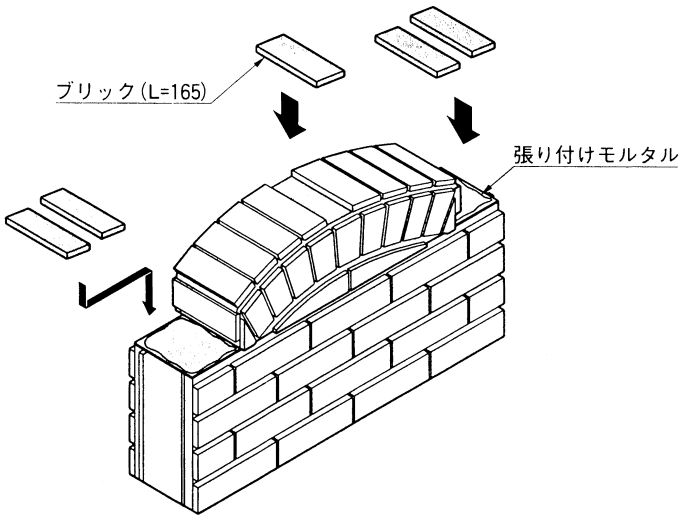
❶ 最上段部のハメ合い用凸部分をA図のように両端から170㎜づつカッターナイフ等で切断してください。
❷ 最上段ブロックにヨコ筋を配筋し、モルタルを充てんしてコテでならしてください。
❸ 天端用デザインブロックを積み上げて、中央のタテ穴にモルタルを充てんしてください。

<注 意>

- 天端用デザインブロックのタテ穴周りを図17-1のように、マスキングしておくときれいに仕上がります。



❹ 鉄筋D-10(L=440)をタテ穴の中央に1本挿入してください。
❺ 充てんモルタルをしばらく乾燥させてください。



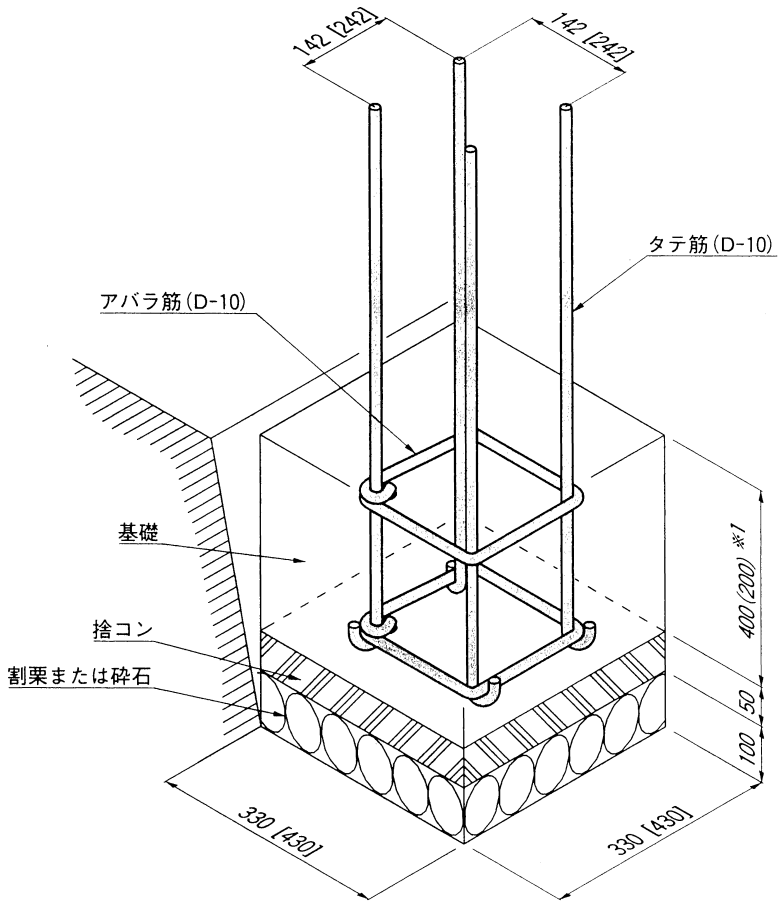
❻ 「現場張り用モルタルセット」を練り合わせ、天端部に4～5㎜厚で塗布してください。
❼ ブリック(L=165)を圧着張りしてください。

<注 意>

- 圧着するときは、充分加圧してください。(ビブラートでの施工をおすすめします。)「現場張り用モルタルセット」は付属しています説明書にしたがい混練してください。

18.300角・400角ブロックの施工

18-1 基礎の施工



<注 意>

- 基礎施工が強度に大きく影響します。特にタテ筋は、必ず基礎に定着させてください。
- 基礎施工が不十分ですと門柱が転倒する危険があります。
- 門柱と塀を連続して施工する場合は、必ず基礎内部で鉄筋を結合して一体化させてください。
- 4段積み以下の場合、基礎深さは200mm以上にしてください。(※1)
  ただし、寒冷地においては、凍結深度が優先されます。
- 左図の寸法は、300角ブロックを施工する場合です。
- [ ]内寸法は、400角ブロックを施工する場合です。

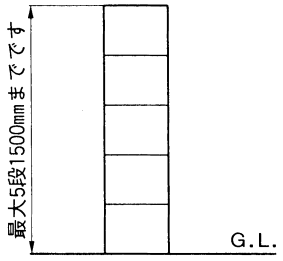
歩掛表 (5段積み)

名称	規格	数量	
		300角	400角
割栗石	C－40	0.01m³	0.02m³
捨コンクリート	160kgf/cm²以上	0.005m³	0.01m³
基礎コンクリート	180kgf/cm²以上	0.05m³	0.08m³
ならしモルタル	1：3	0.004m³	0.006m³
アバラ筋	D－10	1.2m	2.0m

18.300角・400角ブロックの施工(つづき)

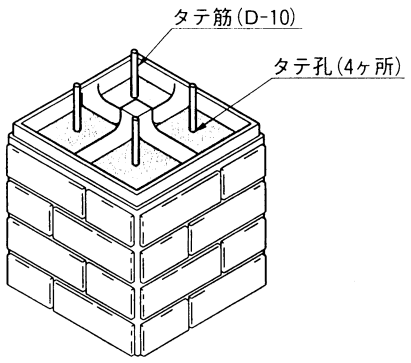
18-2 角ブロックの基本施工

(1)角ブロックの割付け



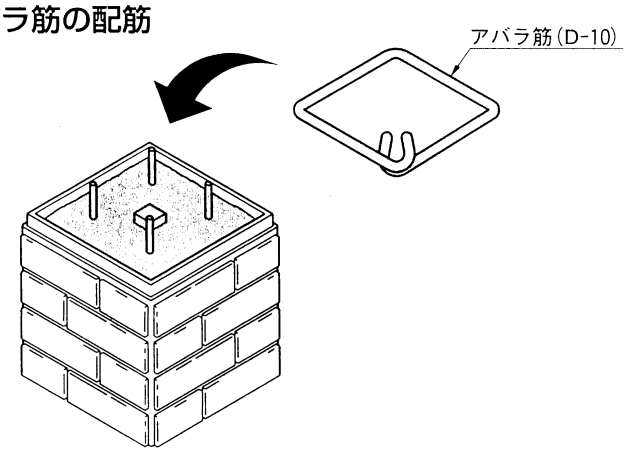
角ブロックの施工方法(基本的な施工手順は、基本ブロックと同じです。)

(2)ならしモルタルの打設・角ブロックの施工



❶ 水準器でレベルの確認をし、調整してください。
❷ 4ヶ所のタテ穴全てにモルタル(砂3:セメント1)を充てんしてください。
❸ 2段目以降は、ブロックの凹凸をカン合わせて積み上げてください。

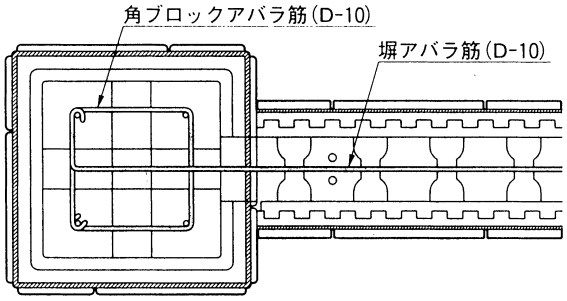
(3)アバラ筋の配筋



❶ アバラ筋は、2段目および4段目と全ての場合の最上段に1本入れてください。

<注 意>
- アバラ筋は全てのタテ筋と結束してください。

(4)塀と連続する角ブロックの施工

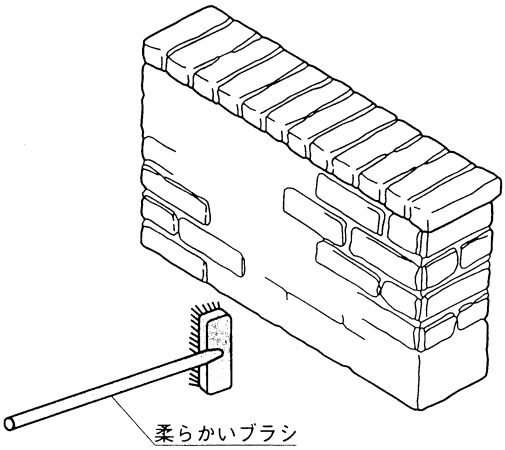


❶ 塀と角ブロックを連続して施工する場合、強度を確保するために必ず、塀のアバラ筋を左図のように、角ブロックのタテ筋にカギ掛けをし、結束してください。

<注 意>
- その際、角ブロックの側面と中央凸部を切り欠いて、塀のアバラ筋が通るようにしてください。

19.防水処理 （※吸水防止のため、必ず行なってください。）

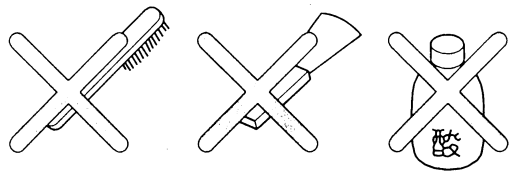
19-1 ブロック表面の清掃



❶ 表面の汚れや土ボコリを、柔らかいブラシで落としてください。

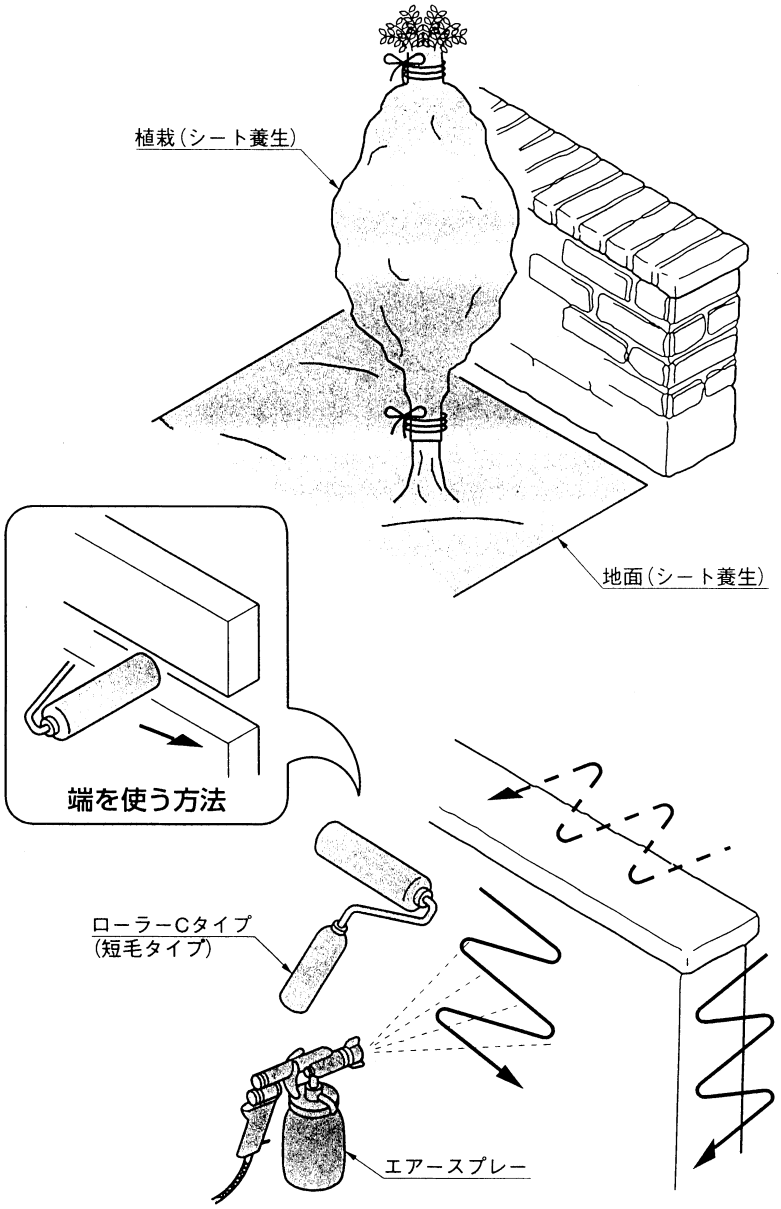
<注 意>

- 下記のものは使用しないでください。
- 水洗は極力避けてください。



ワイヤーブラシ　スクレーパー　酸洗い

19-2 防水塗材の塗布方法



❶ T-ブロック以外の植栽・プランター土等は、しっかりとシート等で養生してください。

<注 意>

- 植木,花,芝生に害を与えるおそれがありますので「防水塗材」をかけたり、根元に流さないでください。

❷ 晴れた日にT-ブロック表面が充分乾燥していることを確認し、できるだけエアースプレー塗装または、毛足の短いミニローラーを使ってダレないように薄く、原液のまま塗布してください。（20g／㎡）

<注 意>

- 防水剤は当社指定のもの以外は絶対に使用しないでください。発泡材を侵すおそれがあります。
- 塗布面積は１ℓで約20㎡です。ブロック両面塗りで約41ヶ分です。(弊社オプション品の場合)
- 作業中はマスク，ゴム手袋を使用してください。
- 皮膚に付着したときは、すぐに水で洗い流してください。

❸ ダレが発生したり、厚く塗布してしまったところは、ボロ布等で乾く前に拭き取ってください。

<注 意>

- 厚く塗布すると光沢が発生しますのでご注意ください。

❹ １～２時間、自然乾燥させてください。また、その間は水がかからないように注意してください。

20.施工上、使用上の注意事項

＜T-ブロック商品に対する知識＞

■T-ブロックはセメント質のブリックを使用しているので、セメントの性質上、白華を生じる場合があります。
- 防水処理剤を施すことにより白華を出にくくすることができます。

■自然な風合いを出すため、表面の凸凹や色合いは材料により違いがあります。

■ブロックごとの目地色の濃度に個体差が生じます。
- お届け時または施工後、季節・施工条件などによりブリックタイル表面が一部白くなる場合がありますが、性能などに問題はありません。

＜施工上のご注意＞

■運搬および保管
- 搬入や施工時の運搬は、カド打ちに注意してください。
- 発泡芯材は太陽光線のもとに長時間放置すると、紫外線により表面が劣化するおそれがあります。
- 発泡芯材部は80℃以上になると変形しますので、高温のものや火気がない場所に保管してください。

■施工
- 充てんモルタルが硬化するまで添え木などで支え、ずれたり倒れたりしないように注意してください。
- 気温が5℃以下になる場合は施工を避けてください。
- 接着やコーキングは当社指定の「専用接着剤」を使用してください。
- 表面にモルタルが付着した場合は、速やかに柔らかいナイロンブラシなどで水洗いをしてください。乾燥してからの酸洗いや、金属ブラシでの清掃はブリック表面を傷めますので行なわないでください。
- 防水剤は必ず、当社指定のものを使用してください。
- 発泡芯材の化学的性質は一般に弱酸、アルカリ、塩類などに優れた抵抗性を持っていますが、アルコール以外の有機溶剤や石油類に侵される性質を持っていますので、それらが付着しないように注意してください。
  （例：有機溶剤系塗料、接着剤、有機溶剤系はっ水剤、灯油、ガソリンなど）

＜使用上のご注意＞

■年に2～3回の水洗いをしてください。

■清掃には金属製ブラシや金ベラは使用しないでください。表面を傷めるおそれがありますので、柔らかいナイロンブラシなどを使用してください。

■汚れがひどい場合には、中性洗剤をうすめた液で汚れを落したあとで、洗剤が残らないようによく水洗いをしてください。その際、近くの植栽に洗剤がかからないように注意してください。

■シンナー、ベンジンなどの有機溶剤の使用は避けてください。

■ブリックの主成分がセメント系であるため、内部や目地部分からカルシウム分が水分により溶け出し、表面に白いシミ（白華現象）が出ることがあります。その場合は、柔らかいナイロンブラシなどで水洗いをしてください。なお、酸や酸性洗剤を用いての酸洗いは表面を傷めるおそれがあるので行なわないでください。

■商品の発泡芯材は難燃材を含んでいますので、微小火源では着火しにくくなっていますが、80℃以上で融解する性質があります。火気や高温のものを近づけないでください。

取説コード
B033

95-01A
199909G